

# 【ソフトウェア使用許諾書】

下記の条項は株式会社アーク情報システム（以下「ARK」といいます）が、「HD 革命 / CopyDrive」（コンピューター・ソフトウェア、マニュアル、その他関連資料を含み、以下「本ソフトウェア」といいます）に適用いたします。

## 1. 使用許諾

- ①お客様が個人ユーザーの場合、本ソフトウェアを1台のコンピューターに限り使用できます。使用するディスク台数に制限はありません。
- ②お客様が法人ユーザーの場合、本ソフトウェアを1台のコンピューターに限り使用できます。ただし、本ソフトウェアをマスター環境を構築したディスクの複製目的として使用するには、複製先とするディスク台数分の追加ライセンスが必要となります。
- ③お客様は、本ソフトウェアのバックアップを目的に、ただ一つの複製を作成することができます（バンドル版は除きます）。

## 2. 使用許諾期間

- ①本契約は、お客様が本契約の内容に同意して本ソフトウェアの使用を開始したときより発効し、お客様が本ソフトウェアの使用を止められるまでを有効とします。
- ②お客様が本契約のいずれかの条項に違反した場合、ARK は本契約を一時的に終了させていただくことがあります。

## 3. 保証および責任の内容

- ① CD およびマニュアルに物理的な欠陥がある場合は、購入後 30 日以内は無償で交換いたします（バンドル版は除きます）。ただし、お客様は本ソフトウェアの購入日を証明できる写しを添付しなければなりません。それ以外の場合は実費をご負担いただきます。
- ② ARK は、本ソフトウェアの仕様およびサービスの内容を予告なしに変更することがあります。なお、本製品のサポートサービス終了に関しては、Web ページにてご案内をいたします。
- ③ ARK は、サポートを終了した製品に関しては、サポートサービスを提供する義務を負わないものとします。
- ④ サポートサービスは、ARK の規定に沿って行いますが、サポートサービスがお客様の目的に適合することを保証するものではありません。
- ⑤ ARK は、ユーザー登録がなされない場合や、登録変更の届け出がなされない場合、またはその内容に不備がある場合において、ARK からお客様へ連絡の不達において生じる不利益および損害については、一切の責任を負うものではありません。なお、メール等でご案内する本ソフトウェアに関する情報やサポートサービスの内容に関しては、Web サイトでも同内容のご案内をしておりますので、こちらをもってお客様へのご連絡とさせていただきます。
- ⑥ ARK および Microsoft 社（バンドル版においては本ソフトウェアの提供先も含みます）は、いかなる場合にもお客様が本ソフトウェアを使用した結果に関して一切の責任を負うものではありません。
- ⑦ 本契約のもとで、本ソフトウェアの品質および性能に関して発生する問題は、お客様の費用負担をもって処理するものとします。
- ⑧ 本契約のもとで、ARK がお客様に負担する責任の総額は、本ソフトウェアの購入金額を超えないものとします。
- ⑨ 本ソフトウェアのサービス（主にサポートサービスとなりますがこれに限りません）は日本国内に限定されるものとします。また、日本語で対応することとします。

## 4. 禁止事項

- ① 本ソフトウェアを逆コンパイルまたは逆アセンブル、またはその他の方法でソースコードを解析すること。
- ② 本ソフトウェアを譲渡、転貸、再販売、輸出すること。
- ③ ARK への文書による事前の承諾なしに、本ソフトウェアの二次著作物を創作、譲渡、販売、転貸すること。
- ④ ARK への事前の承諾なしに、本ソフトウェアを引用し書籍を刊行すること。
- ⑤ ネットワークにおいて、本ソフトウェアを私的使用を超える範囲で利用すること。

## 5. その他

- ① お客様および ARK は、本契約に関連して発生した紛争については、東京地方裁判所を第一審の管轄裁判所とするものとします。
- ② 本ソフトウェアの一部機能は Windows PE を使用しており、Windows PE は Microsoft 社および Microsoft 関連会社のライセンスとなります。
- ③ Windows PE について、Microsoft 社および Microsoft 関連会社でのサポートは行いません。
- ④ Windows PE は、起動から 72 時間後に再起動します。

## 著作権

- ・ HD 革命 / CopyDrive の著作権は株式会社アーク情報システムが有しています。
- ・ HD 革命は株式会社アーク情報システムの登録商標です。

# 目 次

<b>第1章</b>	・ご利用いただける動作環境（システム要件）	1-2
<b>HD 革命/CopyDrive の使用開始にあたって</b>	・ HD 革命 /CopyDrie のインストール	1-4
	・ Windows PE 起動用ディスクでコンピューターを 起動	1-5
	・ 注意事項・制限事項	1-6
<b>第2章</b>	・ ハードディスクのコピー	2-2
<b>HD 革命/CopyDrive を使用する</b>	・ コピー先ハードディスクを消去せずにコピー	2-5
	・ Windows PE 起動用ディスクで起動してコピー	2-8
<b>第3章</b>	・ どこでも起動	3-2
<b>どこでも起動</b>	・ ドライバデータベースの作成とコピーの実行	3-3
	・ 環境修復ツール	3-5
<b>第4章</b>	・ Windows PE 起動用ディスクの作成	4-2
<b>便利ツール</b>	・ CD/DVD/BD メディアの消去	4-5
	・ ディスククローンツール	4-6
	・ オプション設定	4-9
	・ S.M.A.R.T. 情報の取得	4-12
	・ ドライブ情報の取得	4-14
	・ コンピューター情報の取得	4-15
	・ アップデータの確認	4-17
<b>第5章</b>	・ ディスクの初期化とパーティションの作成	5-2
<b>参考資料</b>	・ USB メモリーのフォーマット	5-4
<b>付録</b>	・ ユーザーサポートのご利用にあたって	付-2
	・ HD 革命 /CopyDriveVer.7 ユーザーサポートに ついて	付-3

## 第 1 章

# HD 革命 /CopyDrive の使用開始にあたって

(動作環境・インストール・注意事項 / 制限事項)



ここでは、HD 革命 /CopyDrive の動作環境、インストール方法、HD 革命 /CopyDrive をご利用いただくにあたってあらかじめお読みいただきたい注意事項や制限事項について説明しています。

# ご利用いただける動作環境（システム要件）

HD 革命 /CopyDrive をご利用いただくためには、次のコンピューターハードウェアおよびオペレーティングシステムが必要です。

## インストールして使用する場合

オペレーティングシステム (いずれも日本語版)	Windows 10 32bit/64bit 版 Windows 8.1 32bit/64bit 版 (Windows 8.1 Update を含む) Windows 7 32bit/64bit 版 (SP1 以降) ※アドミニストレータ権限（管理者権限）が必要です。 ※Windows RT/RT 8.1 には対応していません。 ※Windows 8 は Windows 8.1 にアップデートして使用してください。
コンピューター	上記のオペレーティングシステムが稼働するコンピューター (PC/AT 互換機のみ) ※Macintosh (Mac) には対応していません。
メモリー	Windows 10/8.1/7 64bit 版 : 2GB 以上 Windows 10/8.1/7 32bit 版 : 1GB 以上
CD/DVD ドライブ	CD を読み込めるドライブ ※Windows PE 起動用ディスクを CD/DVD メディアに作成するには、メディアの書き込みに対応したドライブが必要。
ハードディスク・SSD	100MB 以上の空き容量 ※このほかに Windows PE 起動用ディスクイメージなど作業ファイルを保存するための空き容量が必要。
その他	インターネット接続環境 ※Windows PE 起動用ディスクの作成やアップデータのダウンロードで使います。この機能を使用しない場合は不要。 起動用 USB メモリーを作成する場合、1GB 以上の USB メモリーが必要。



HD 革命 /CopyDrive は Symantec 社の「Norton GoBack」とは共存できません。



### Lite 版について

Lite 版はハードウェアにバンドルされた製品です。通常版から機能が限定されており、Windows PE 起動用ディスクの作成機能など、本マニュアルに記載されている一部機能が使用できません。

## 起動用 CD (USB メモリー) から起動して使用する場合

(Lite 版は非対応)

「Windows PE 起動用ディスク」(起動用 CD/USB メモリー) を作成することで、Windows PE でコンピューターを起動してコピーを行うことができます。

オペレーティングシステム	オペレーティングシステムに依存しません (Windows PE を起動するため)。
コンピューター	インストールして使用する場合と同様 ※ コンピューターの設定変更が必要となる場合があります。
メモリー	512MB 以上 (ビデオメモリーと兼用の場合は 1GB 以上)
CD ドライブ	CD を読み込めるドライブ ※ 起動用 USB メモリーを使用して起動する場合は不要。
ハードディスク・SSD	ドライブのコピーを行うためのハードディスク・SSD
その他	・ 起動用 USB メモリーで起動する場合、USB から起動できる環境が必要 ・ ハードディスクを認識するためのドライバ ※ RAID、SCSI 環境で Windows PE 版を使用する際、ハードディスクが認識されなかった場合に必要。



Windows PE は起動してから 72 時間後に自動的に再起動します。



### 起動デバイスの優先順位について

最近のコンピューターの多くは CD や USB デバイス中の OS も起動可能ですが、多くの場合、初期状態ではハードディスクからの起動設定になっており、そのままでは起動できないことがあります。CD や USB デバイスから OS を起動するためには下に示した例のように、起動時にファンクションキーを押してメニューを呼び出しデバイスの選択、BIOS と呼ばれる設定画面での設定変更などが必要です。ただし、起動するデバイスの変更方法はメーカーや機種に依存してさまざまであるため、その具体的な方法は弊社ではお答えすることはできません。コンピューター付属のマニュアルやヘルプを参照するか、ハードウェアメーカーにお問い合わせください。

#### 《起動デバイスの設定例》

##### ● SONY VAIO SVT13119

- ① 電源が切れている状態で「ASSIST」ボタンを押す。
- ② 表示されたメニューの中で「USB メモリーやディスクから起動」を選択する。

##### ● Lenovo G580

- ① 電源を入れた後に BIOS が表示されるまで「F12」キーを何度も押す。
- ② リストの中から、起動するデバイスを選択する。

##### ● NEC VALUESTAR VW770/J

- ① 電源を入れた後に BIOS が表示されるまで「F2」キーを何度も押す。
- ② BIOS のメニューで「BOOT」を選択する。
- ③ 「1st Boot」で「Enter」キーを押し、「CD/DVD」を選択する。
- ④ 「Exit」→「Save changes and Reset」を選択する。

# HD 革命 /CopyDrive のインストール

旧バージョンのHD 革命 /CopyDrive がインストールされている場合は、アンインストールしてからインストールを始めてください。

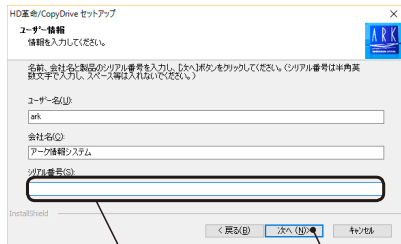
## 1 インストール開始

「インストール開始」をクリックします。



## 2 シリアル番号の入力

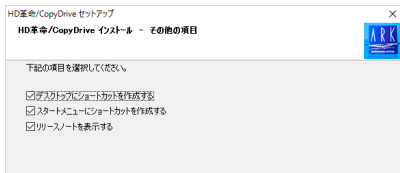
シリアル番号を入力します。



- !** シリアル番号は、半角英字の大文字と半角数字で入力してください。ハイフン( - )も必要です。  
(例) ABCD - E12 - FGH345JK67  
受け付けられないときは、全角文字や小文字になっていないかどうかを確認してください。

## 3 項目の選択

インストールに関する設定を行います。「デスクトップにショートカットを作成する」を選択すると、インストール後、デスクトップに「Ark ランチャー」のアイコンが作成されます。



## 4 再起動

インストール後はコンピューターを再起動します。

アンインストールは、Windows の「コントロール パネル」を開き、「プログラムのアンインストール」から行ってください。

## Ark ランチャーについて

Ark ランチャーは、HD 革命 /Copy Drive のメイン画面の起動や、各種ツールを起動することができます。



# Windows PE 起動用ディスクでコンピューターを起動

HD 革命 / CopyDrive で作成した Windows PE 起動用ディスク（起動用 CD/USB メモリー）でコンピューターを起動し、ドライブのコピー操作を行うことができます。

Windows PE 起動用ディスクは、4-2 ページの手順で最初に作成することをおすすめします。

## 1 コンピューターを起動

起動用 CD をドライブに挿入（起動用 USB メモリーは USB ポートに接続）した状態でコンピューターを起動します。

## 2 起動の選択

次のメッセージが表示されている間に、キーボードで何かキーを押します。

Press any key to boot from CD or DVD...\_

- ⚠ このメッセージが表示されない場合は、CD または USB メモリーから起動できるようにコンピューターの設定を変更する必要があります。1-3 ページのコラムを参考にしてください。なお、変更方法が不明な場合は、ご使用のコンピューターメーカーにお問い合わせください。



### ドライバのインストール

起動後の Ark ランチャーで、「便利ツール」→「デバイスドライバのインストール」を選択し、ドライバ情報ファイル（inf ファイル）を選択して RAID や SATA などのドライバを追加できます。

ハードディスクが認識できる場合はこの操作は不要です。必要なドライバはハードウェアに添付されているものを使用するか、メーカーの Web サイトからダウンロードしてください。

## 3 Ark ランチャーの起動

Ark ランチャーが起動しますので、操作を選択します。

なお、RAID や SCSI 環境で対応したドライバが必要な場合は、左下のコラムを参照しドライバをインストールしてください。



### Point

右上の × ボタンをクリックすると、Ark ランチャーが終了しコンピューターが再起動します。

# 注意事項・制限事項

## ドライブのコピー実行前の確認

### 安全に利用いただくために

HD 革命 / CopyDrive を安全にご使用いただくためには、以下の点に注意して操作を行ってください。

- ・コピーを行う前に、コンピューターを初期状態に戻すための USB メモリーや DVD メディアを作成することをおすすめします。このようなメディアの名称は、メーカーや OS により異なりますが、回復ドライブやリカバリディスクと呼ばれています。
- ・ドライブの容量、ハードウェアの速度によってはコピーに大変時間がかかることがあります。ノート型コンピューターをご利用の場合はバッテリー切れ防止のため AC アダプタの使用をおすすめします。
- ・コピー処理が実行されている間は、周辺機器（ハードディスク、USB メモリーなど）の接続・取り外しは行わないようにしてください。安全のため、あらかじめ接続を外すか、電源を切っておくことをおすすめします。
- ・コピー中にコンピューターの電源を切ったりリセットボタンを押したりすると、データが失われる可能性がありますので、行わないようにしてください。
- ・操作完了や再起動の選択メッセージが表示されたときに、ハードディスクのアクセスランプが点滅しているような場合は、点滅が収まるまで待ってから操作を行ってください。
- ・お使いの環境やインストールされているソフトウェアによっては、正常に動作しないことがあります。このような場合は、常駐ソフトウェアの停止や周辺機器の取り外しを行うことで、動作するようになることがあります。
- ・不測の事態に備え、大切なデータは個別に CD/DVD や USB メモリーなどに保存する

とより安全です。

- ・Symantec 社の「Norton GoBack」とは共存できません。

### ハードディスク環境について

コピーを行うためのハードディスク環境には、次のような制限および注意事項があります。

- ・ハードディスクにエラーや不良セクターが存在する場合、正常にコピーができないことがあります。Windows の「チェックディスク」やハードディスクの診断ツールなどでエラーチェックを行い、正常な状態で使用してください。
- ・NAS（LAN ディスク）など、ネットワーク上のハードディスクにコピーを行うことはできません。
- ・リムーバブルドライブとして認識されているハードディスクにはコピーを行うことはできません。
- ・512 バイトエミュレーションを行っていない 4K セクター（4K ネイティブ）フォーマットのハードディスクを、コピー元またはコピー先として使用することはできません。
- ・Windows 7 以降の仮想ハードディスクドライブ（VHD）のコピーについては動作保証外となります。

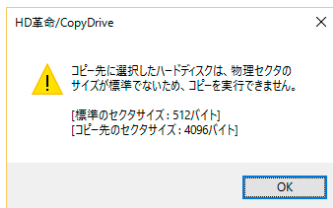
### コピーに使用する機器について

HD 革命 / CopyDrive で内蔵の IDE や SATA 接続のハードディスクをコピーする場合、内蔵として直接 2 台を接続するほかに、外付け USB 接続のハードディスクとして変換するためのケースやケーブルを使用することもできます。このような機器を使用する際、アドバンスド・フォーマット・テクノロジー（AFT）のハードディスクで 1 セクターのバイト数が 4K（4096）バイトとして認識されてしまうことがあります。この現象は、株式会社タイムリーの



変換ケーブル (UD-500SA) などで確認されています。

HD 革命 /CopyDrive では、1 セクターのバイト数が 4K として認識されるハードディスクにコピーを行う場合は、次のメッセージが表示されコピーできませんので、512 バイトとして認識される別の機器に交換してコピーを行ってください。なお、お使いのハードディスクにおける 1 セクターのバイト数の数値は、「ドライブ情報の取得」(4-14 ページ) で確認できます。



## ファイルシステムについて

FAT、NTFS 以外にも各種 OS で使用されるファイルシステムに対応していますが、次のような制限事項があります。

- ・ Windows 以外の OS のファイルシステムに関しては、データの有無にかかわらずドライブ内の全セクターをコピーします。
- ・ HPA (Hidden Protected Area) や DtoD (Disk to Disk) のような「ディスクの管理」で認識されない隠し領域 (リカバリー領域) をコピーすることはできません。ただし、「MSR (GPT 予約パーティション)」は「ディスクの管理」で認識されていなくてもコピーされます。
- ・ ダイナミックディスクには対応していません。

## GPT ディスクのコピーについて

GPT ディスクの環境をコピーする際には、次のような制限事項があります。

- ・ GPT ディスクに対応していない Windows XP

32bit 版などの OS では、パーティションを認識できません。

- ・ GPT ディスクから Windows を起動するには、OS が Windows 7 以降の 64bit 版で、かつ UEFI モードで起動可能なコンピューターが必要です。
- ・ MBR ディスクから GPT ディスクに変換してコピーする場合は、Windows にインストールした「HD 革命 /CopyDrive」を起動して行うのではなく、「HD 革命 /CopyDrive」の Windows PE 起動用ディスクを UEFI モードで起動して行ってください。
- ・ GPT ディスクから MBR ディスクにコピーを行う場合、コピー先ディスクの後方に 128MB の空き領域ができます。これは、4 番目以降のプライマリパーティションを拡張領域内の論理ドライブとして変換するための作業領域として使用したものですので、コピー後はパーティションを拡張しても問題ありません。

## Windows 以外の OS をコピーする場合の制限

(「ファイルシステムについて」もお読みください)

Windows 以外の OS がインストールされているハードディスクをコピーする場合、以下のような制限があります。

- ・ 拡大、縮小コピーを行うとコピー先ハードディスクから起動できない場合があります。
- ・ Linux の環境をコピーした場合、コピー先ハードディスクから起動するために Linux の再設定が必要になることがあります。
- ・ Windows PE 起動用ディスクで起動してコピーをする場合、Windows 以外の OS はコピーできないことがあります。

## Windows 8 以降の「記憶域」で作成したディスクについて

Windows 8 以降の「記憶域」で作成したディスクをコピー元またはコピー先として使用することはできません。

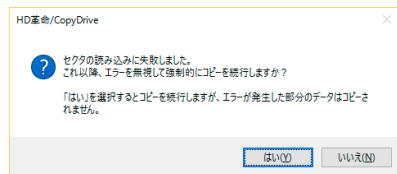
## ドライブコピー実行時の注意・制限事項

### 起動ドライブへのコピーについて

Windows にインストールしてコピーする場合は、Windows がインストールされ起動中のシステムパーティション（起動ドライブ）をコピー先とすることはできません。システムパーティションをコピー先とする場合は、Windows PE 起動用ディスクで起動した HD 革命 / CopyDrive でコピーを行ってください。

### コピー中のエラーについて

コピーの途中で、ハードディスクに読み込みエラーが発生した場合は、コピー中に次のメッセージが表示されます（書き込みエラーの場合は、「書き込みに失敗」となります）。



エラーを無視してコピーを続行する場合は、「はい」をクリックしてください。この場合、エラーが発生した個所のデータはコピーされません（コピー先ハードディスクのデータは保証されません）。コピーをキャンセルする場合は「いいえ」をクリックしてください。

### 回復パーティションを移動するオプションについて

HD 革命 / CopyDrive では、OS のアップグレードを行った際に新たに作成される回復パーティションを、コピー時にディスクの先頭に移動するオプションがあります。このオプションを使用する際には、以下の注意事項があります。

- 回復パーティションが移動できるのは、GPT ディスクのみとなります。MBR ディスクは移動できません。
- Microsoft 標準のパーティション ID を持つ

回復パーティションのみ移動することができません。コンピューターメーカーが独自に作成した、異なる ID を持つ回復パーティションは移動できません。

- 複数の回復パーティションがある場合は、すべて移動されます。
- コンピューターによっては、回復パーティションを移動してしまうとリカバリーができなくなる可能性がありますので注意してください。

### EFW 方式でコピーを行う場合の制限事項

EFW 方式は旧バージョンで採用されていたコピー方式ですが、Ver.6 以降で採用している新方式でのコピーができないときのために「オプション設定」で選択できるようになっています。EFW 方式でコピーを行うには、以下の制限事項があります。

- コピー元ドライブの使用容量 1GB に対して 1MB のメモリーが必要です。メモリーが不足している場合は、EFW 方式のコピーはできません。
- コピーを開始した時点のドライブの内容がコピーされます。コピー中に作成したファイルや変更されたファイルはコピーされません。
- コピー中に一時ファイルが「一時ファイルの設定」で指定した容量に達すると、コピーを継続することができません。コピーが中断され一時ファイルの内容をディスクに書き戻しますので、書き戻し中はコンピューターの電源を切る、リセットを行うなどの操作は行わないでください。
- 一時ファイルの増加が大きい場合は、コピー中に他のアプリケーションは使用しないようにしてください。また、常駐されているソフトが書き込みを行っている場合もありますので、常駐を停止するなどしてください。

## 拡大・縮小コピー時の制限事項

コピー元とコピー先のハードディスクの大きさが異なる場合、サイズを変更してコピーすることができます。このとき、以下の制限事項があります。

### 拡大コピーの制限事項

- ・サイズ変更ができるファイルシステムはドライブ文字が割り当てられた NTFS、FAT32、exFAT です。FAT16 や他の OS のファイルシステム、隠しパーティションなどはサイズ変更できません。
- ・「コピー先にサイズを合わせる」のオプションを使用する場合、コピー先ハードディスクの各パーティションサイズは自動的に指定されます。
- ・2TB より大きい exFAT のパーティションが存在すると、環境によってはコンピューターが起動できないことがあります。
- ・Windows Vista では OS の制限のため「ディスクの管理」や「エクスプローラー」から、2TB より大きい exFAT のドライブを認識することができません。
- ・ファイルシステムが FAT32、exFAT のパーティションを拡大コピーする場合は、クラスターサイズにより拡大できるサイズに制限があります。

FAT32 の場合のサイズと上限値

パーティションのサイズ	標準 クラスターサイズ	拡大できる 上限値
32MB ～ 64MB	512byte	64GB
64MB ～ 128MB	1kB	128GB
128MB ～ 256MB	2kB	256GB
256MB ～ 8GB	4kB	512GB
8GB ～ 16GB	8kB	1TB
16GB ～ 32GB	16kB	2TB

※ 1KB (キロバイト) = 1024byte (バイト)

### 縮小コピーの制限事項

- ・縮小コピーの場合、コピー先のハードディスクには、「既存の各パーティションの使用量

+ 500MB) 以上の容量が必要です。

- ・コピー先ハードディスクの各パーティションの容量は自動的に調整されます。
- ・コピー元とコピー先ハードディスクのヘッド数が異なるとき、容量が小さいハードディスクへコピーすること（縮小コピー）はできません。

### 別のコンピューターでの起動について

コピーを行ったコンピューターとは別のコンピューターに、コピー先ハードディスクを接続して起動する場合は、次のような注意・制限事項があります。

- ・ドライブのコピーを行う前に、ハードウェアのデータベースファイルを作成してください (3-3 ～ 3-4 ページ)。
- ・起動するコンピューターでライセンスの再認証が必要です。ライセンス認証については、マイクロソフトまたはコンピューターのメーカーにお問い合わせください。コンピューターメーカーによっては、プリインストールされている Windows を他のコンピューターで使用する権利がない場合がありますので、ライセンス規約に違反することがないように十分に注意してください。
- ・別のコンピューターで起動した際に、そのコンピューター用のサウンド、ビデオドライバなどのインストールが必要となる場合があります。
- ・コピー元とコピー先でハードディスクのヘッド数が異なる場合、コピー先をコピー元のヘッド数に合わせてコピーを行います。このようなヘッド数が異なる環境でコピーを行ったハードディスクは、別のコンピューターに接続しても正常に起動できない場合があります。
- ・必ずしも別のコンピューターでコピーした OS が正常に起動できるとは限りません。すべての環境における動作保証はできませんのでご了承ください。

## Windows PE 起動用ディスクで起動して 操作する場合の注意事項

Windows PE 起動用ディスクで起動してコピーを行う場合、次のような注意・制限事項があります。

- ・ハードディスクの順番やドライブ文字が、Windows 上とは異なる場合があります。特に、Windows 7 以降の MBR ディスクに存在する「システムで予約済み」領域は「C ドライブ」として認識されます。コピーを行う場合は、ドライブの順番やドライブ文字に注意してください。
- ・72 時間後に自動的にコンピューターが再起動します。

## BitLocker で暗号化されたドライブ について

BitLocker で暗号化されているハードディスクをコピーすることはできますが、コピー先のハードディスクを開く(中のファイルを見る)ことはできません。そのため、システムドライブをコピーしても、コピー先のハードディスクから Windows を起動することはできません。

## コピー先ハードディスクでのシステム復元 について

コピーを行ったハードディスクで起動して使用する場合、コピー元ハードディスクで作成した復元ポイントは利用できなくなることがあります。また、環境によっては回復ドライブを作成するプログラムの起動や、リカバリーディスクの作成機能が起動しなくなる可能性があります。これは、ディスク ID の変更やパーティションが存在するセクターが変更されることにより発生するため、HD 革命 /CopyDrive の仕様上回避することができません。そのため、コピー元のハードディスクで、システムドライ

ブを初期状態に戻す USB メモリー（回復ドライブ）や、リカバリーメディアをあらかじめ作成しておいてください。

## 革命シリーズとの共存について

- ・HD 革命 /WinProtector、SSD 革命 /Speed Advance で保護中は、EWF 方式のコピーを行うことはできません。
- ・HD 革命 /DISK Mirror、BOOT 革命 /DISK Mirror で同期中は、HD 革命 /CopyDrive でドライブのコピーを行わないでください。
- ・HD 革命 /CopyDrive でコピーを行っている間は、HD 革命、BOOT 革命シリーズの起動、実行を行わないでください。

## 第2章

# HD 革命 /CopyDrive を使用する



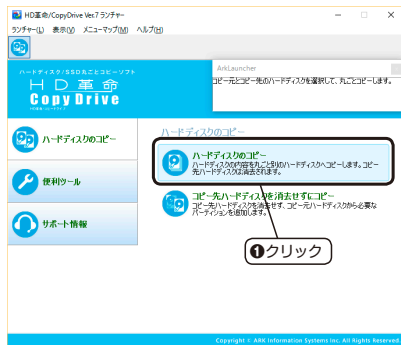
この章では、HD 革命 /CopyDrive を使用してハードディスクをコピーする方法について説明しています。

# ハードディスクのコピー

ハードディスクのコピーは、Windowsが起動した状態で行われ、ハードディスクの内容を丸ごと別のハードディスクにコピーすることができます。コピー先ハードディスクは消去してからコピーが行われます。

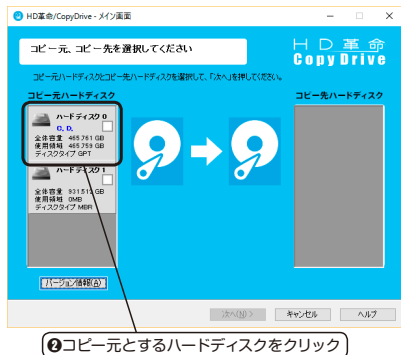
## 1 HD 革命 /CopyDriveの起動

Arkランチャーで「ハードディスクのコピー」を選択します。



## 2 コピー元ハードディスクの選択

コピー元とするハードディスクを選択します。



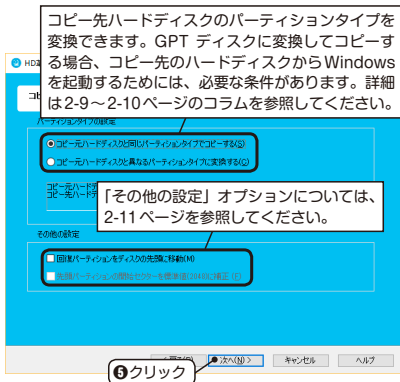
## 3 コピー先ハードディスクの選択

コピー先のハードディスクを選択し、「次へ」をクリックします。



## 4 オプションの選択

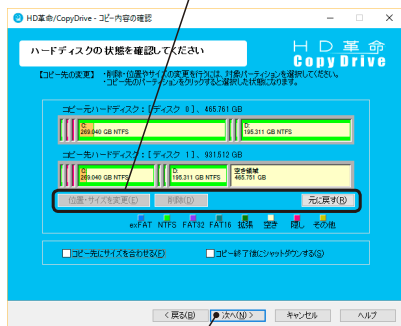
コピーのオプションを選択します。



## 5 コピー内容の確認

コピーするパーティションの選択とサイズ変更を行うことができます。

コピー先ハードディスクの位置とサイズを変更する操作については、2-12ページを参照してください。

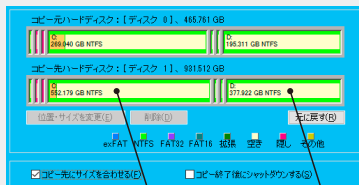


①クリック



### コピー先にサイズを合わせる

「コピー先にサイズを合わせる」にチェックを入れることで、コピー先ハードディスクの大きさに合わせて拡大コピーを行うことができます。



各パーティションのサイズは自動的に割り当てられます。

## 6 コピーの開始

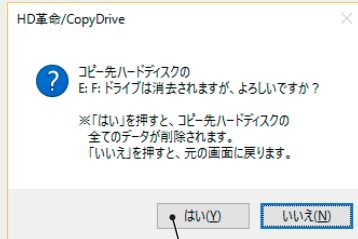
「開始」をクリックするとコピーが開始します。



①クリック

### Point

コピー先のディスクが空でない場合は、パーティションをすべて消去してからコピーが行われます。



コピー先を消去してもよい場合、「はい」をクリック

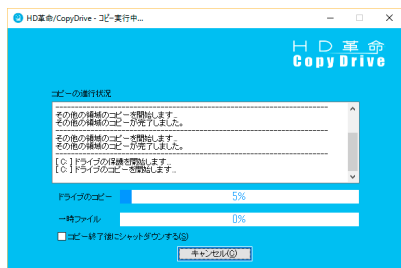


「はい」をクリックするとコピー先ディスクの内容がすべて消去されます。元に戻すことはできませんので、間違いがないかよく確認してください。

## 7

## コピーの実行

コピー中は進行状況が表示されます。

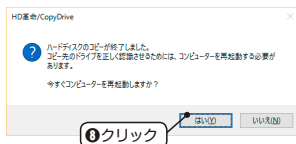


「キャンセル」をクリックするとコピーを中断できますが、コピー先ハードディスクを元に戻すことはできません。

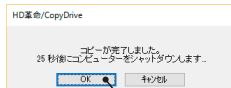
## 8

## コピーの終了

コピー後はコンピュータを再起動します。



コピーのオプションで「コピー終了後にシャットダウンする」を選択している場合、コピー終了時に次の画面が表示され、30秒後にコンピュータがシャットダウンします。



①クリック



## コピー先ハードディスクの表示について

HD革命/CopyDriveでWindows 7以降がインストールされたMBRディスクのコピーを行うと、コピー先ハードディスクの「システムで予約済み」領域も「コンピューター」画面に表示されます。

「システムで予約済み」領域は、Windowsの起動に必要なパーティションとなりますので、削除しないようにしてください。

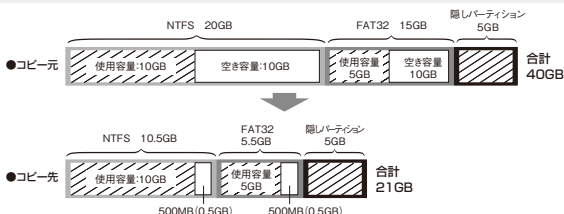
### デバイスとドライブ (7)

ローカル ディスク (C:)	ローカル ディスク (D:)
空き領域 63.0 GB/72.9 GB	空き領域 195 GB/195 GB
ローカル ディスク (E:)	システムで予約済み (K:)
空き領域 197 GB/197 GB	空き領域 69.6 MB/99.9 MB
ローカル ディスク (L:)	ローカル ディスク (M:)
空き領域 208 GB/237 GB	空き領域 218 GB/227 GB



## コピー先ハードディスクが小さい場合のコピー

コピー先ハードディスクが小さい場合は、各パーティションを縮小してコピーが行われます。コピー先パーティションのサイズは自動的に割り当てられますが、コピー先ディスクには「既存の各パーティションの使用量 + 500MB」以上の空き容量が必要です。



各パーティションごとに、使用容量 + 500MB (0.5GB) の容量がコピー先ハードディスクに必要です。

この例では、コピー先に最低 21GB 以上の空き容量が必要となります。



# コピー先ハードディスクを消去せずにコピー (Lite 版は非対応)

HD 革命 / CopyDrive でコピーを行う場合、通常のコピー方式ではコピー先ハードディスクをすべて消去してからコピーが行われます。これに対して、「コピー先ハードディスクを消去せずにコピー」を選択した場合、コピー先ハードディスクを消去せずにパーティション単位でコピーを行うことができます。

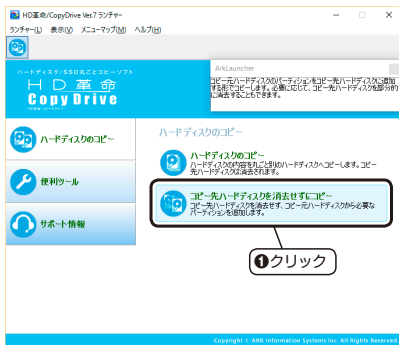
ただし、コピーを行うにはいくつかの条件と制限事項がありますので注意が必要です。

## 重要 はじめにお読みください

- ・コピー先ハードディスクのブートの設定は変更しないため、システムドライブをコピーしても起動できません。
- ・コピー先ハードディスクにシステムドライブが存在する場合は、パーティションの差し込み位置によってはコピー先ハードディスクの OS が起動できなくなることがあります。
- ・コピー先ハードディスクの既存パーティションを削除することはできますが、パーティションの位置とサイズの変更はできません。
- ・初期化されていないハードディスクにコピーを行うことはできません。
- ・コピー先として選択できるディスクは GPT ディスクのみとなります。MBR ディスクは選択できません。

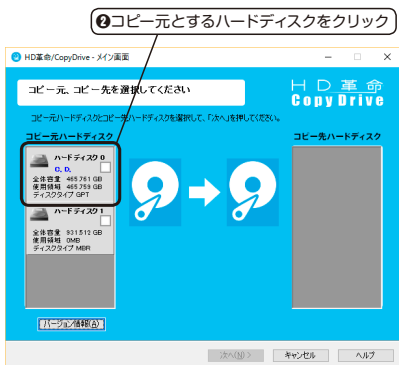
## 1 HD 革命 / CopyDrive の起動

Ark ランチャーで「コピー先ハードディスクを消去せずにコピー」を選択します。



## 2 コピー元ハードディスクの選択

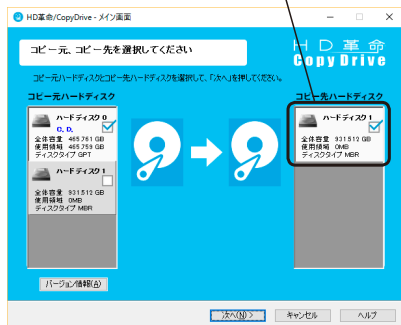
コピー元とするハードディスクを選択します。



### 3 コピー先ハードディスクの選択

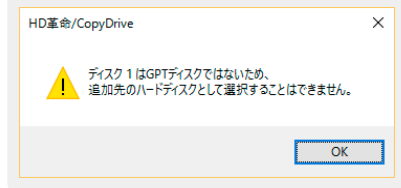
コピー先のハードディスクを選択し、「次へ」をクリックします。

③コピー先とするハードディスクをクリック



#### Point

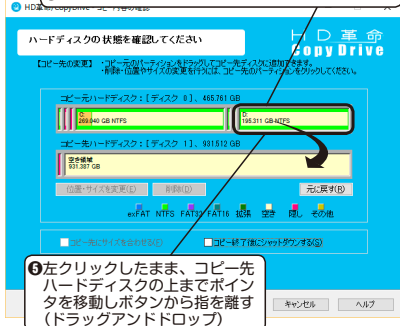
コピー先が MBR ディスクの場合は、次のメッセージが表示されコピーできません。コピー先は GPT ディスクを選択してください。ディスクタイプは HD 革命 /CopyDrive のメイン画面で確認できます。



### 4 コピー内容の確認

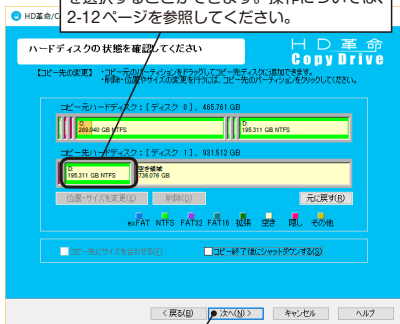
コピーするパーティションをドラッグアンドドロップしてコピー先ハードディスクに入れ込みます。

④コピーするパーティションを左クリックでつかむ



⑤左クリックしたまま、コピー先ハードディスクの上までポインタを移動しボタンから指を離す(ドラッグアンドドロップ)

コピー元のドライブ(この例ではDドライブ)と同じサイズでコピー先に登録されます。登録したパーティションは、「位置・サイズを変更」を選択することができます。操作については、2-12ページを参照してください。



⑥クリック

#### Point

コピー先ハードディスクを消去せずにコピーを行う場合、コピー先にある既存のパーティションに対して「削除」はできませんが、「位置・サイズを変更」はできません。また、「コピー先にサイズを合わせる」のオプションは使用できません。

## 5 コピーの開始

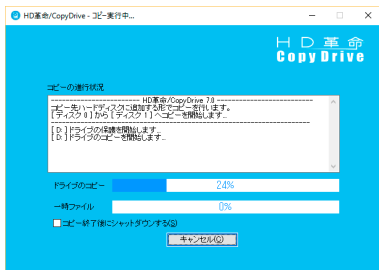
「開始」をクリックするとコピーを開始します。



1クリック

## 6 コピーの実行

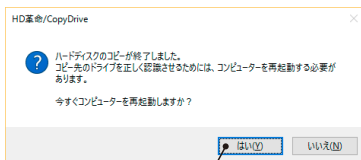
コピー中は進行状況が表示されます。



「キャンセル」をクリックするとコピーを中断できます。ただし、コピー先ハードディスクのパーティションを削除するように設定していた場合は、削除されたドライブを元に戻すことはできません。また、コピーが正しく行われていないため、パーティションがRAWの状態となりそのままでは使用することはできなくなります。もう一度最後までコピーを行うか、Windowsのディスクの管理でRAWとなったパーティションを削除してください。

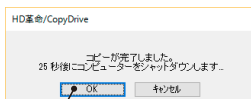
## 7 コピーの終了

コピー後はコンピューターを再起動します。



1クリック

コピーのオプションで「コピー終了後にシャットダウンする」を選択している場合、コピー終了時に次の画面が表示され、30秒後にコンピューターがシャットダウンします。



1クリック

# Windows PE 起動用ディスクで起動してコピー

あらかじめ作成したWindows PE 起動用ディスク（4-2ページ）でコンピューターを起動しコピーを行うことができます。基本的な操作方法は、Windowsにインストールして行う場合と同様です。

## 1 コンピューターを起動

1-5ページの手順でコンピューターを起動します。

### Point

MBR ディスクから GPT ディスクに変換してコピーする場合は、Windows PE 起動用ディスクをUEFI モードで起動（UEFI ブート）してください。UEFI モードで起動しないでコピーした場合は、GPT ディスクからの起動に必要なファイルがコピーされず、コピー先のハードディスクから起動できません。

## 2 コピー方式を選択

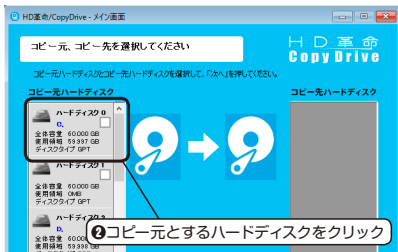
Ark ランチャーでコピー方式を選択します。



- Windows PE 起動用ディスクで起動した場合、表示されるディスクの順番が Windows 上とは異なることがあります。現在 Windows がインストールされ起動しているハードディスクが「ハードディスク 0」であるとは限りません。コピー元とコピー先を逆に選択してコピーを行ってしまうと Windows がインストールされたハードディスクが上書きされてしまいますので、よく確認してから先に進むようにしてください。

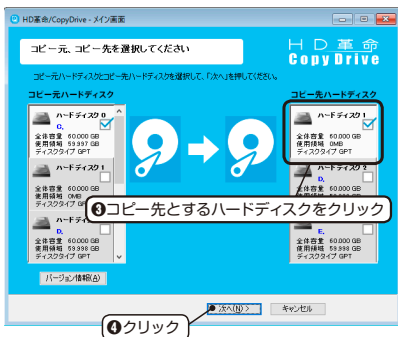
## 3 コピー元ハードディスクの選択

コピー元とするハードディスクを選択します。



## 4 コピー先ハードディスクの選択

コピー先のハードディスクを選択し、「次へ」をクリックします。



②で「ハードディスクのコピー」を選択した場合は2-2ページ以降、「コピー先ハードディスクを消去せずにコピー」を選択した場合は2-5ページ以降を参照してください。



## MBR ディスクから GPT ディスクに変換してコピー

### (1) GPT ディスクからの起動について

GPT ディスクから Windows を起動するには、OS が Windows 7 以降の 64bit 版で、かつ UEFI ブート可能なコンピューターが必要です。例えば、Windows 10 32bit 版の MBR ディスクを GPT ディスクに変換してコピーを行っても、起動する条件を満たしていないためコピーしたハードディスクから Windows を起動できません。GPT ディスクを起動ディスクとする場合は、お使いの環境が対応しているかどうかを確認してください。

### (2) システムパーティションをコピーする場合の注意事項

システムパーティション（Windows が起動しているパーティション）が含まれるハードディスクを MBR ディスクから GPT ディスクに変換してコピーする場合は、Windows 上で行うのではなく、「HD 革命 / CopyDrive」の Windows PE 起動用ディスクを UEFI ブートして行ってください。Windows 上でもコピー自体はできますが、GPT ディスクからの起動に必要なファイルが MBR ディスクにはないのでコピーがされず、コピー先のハードディスクから起動することはできません。

また、コピー先ハードディスクから起動するには、コンピューターの UEFI 起動メニューで「Windows Boot Manager」と表示されたディスクを起動ディスクとして選択してください。

UEFI ブートの方法は、コンピューターにより異なります。コンピューターメーカーの Web サイトやマニュアルで起動方法を確認してください。

### (3) パーティション構成について

システムパーティションを含む MBR ディスクの環境を GPT ディスクに変換してコピーする場合は、コピー先ハードディスクのパーティションは次のように変換されます。

- ・拡張パーティションの中の論理ドライブは、プライマリ（基本）パーティションとなります。
- ・Windows 7 以降の「システムで予約済み」と表示された領域（メーカー製のコンピューターではこれに相当する領域）は、「回復パーティション」となります。この「回復パーティション」を除外してコピーすることはできません。
- ・隠しパーティションは、GPT の隠し属性が設定されてドライブレター無しのパーティションとして認識されます。
- ・システムパーティションの前に「EFI システムパーティション」と「MSR（Microsoft システム予約パーティション）」が作成されます。

コピー元 MBR ディスク	ディスク 0			
	ベシック 149.01 GB オンライン	システムで予約済 100 MB NTFS 正常 (システム)	(C:) 76.60 GB NTFS 正常 (ブート、ページファイル、クラッシュダンプ)	(D:) 72.31 GB NTFS 正常 (論理ドライブ)
コピー先 GPT ディスク	ディスク 1			
	ベシック 465.64 GB オンライン	100 MB 正常 (回復)	(E:) 76.60 GB NTFS 正常 (プライマリ パーティション)	(F:) 72.31 GB NTFS 正常 (プライマリ パーティション)
				316.53 GB 未割り当て

■ 未割り当て ■ プライマリ パーティション ■ 拡張パーティション ■ 空き領域 ■ 論理ドライブ

#### Point

Windows の「ディスクの管理」画面では、「MSR」は表示されませんが、領域として存在しています。



## GPT ディスクから MBR ディスクに変換してコピー

### パーティションの構成について

システムパーティションを含むGPTディスクの環境をMBRディスクに変換してコピーする場合は、コピー先ハードディスクのパーティションは次のように変換されます。

- ・4 番目以降のプライマリ（基本）パーティションは、拡張パーティションの中の論理ドライブとなります。
- ・「回復パーティション」はそのままコピーされます。ただし、OS の起動に関係していないため、除外してコピーすることができます。
- ・「EFI システムパーティション」と「MSR（Microsoft システム予約パーティション）」は削除されます。
- ・2 TB を超えるハードディスクをコピー先に選択した場合、使用できる容量は2TB までとなります。
- ・GPT の隠しパーティションは、GPT の隠し属性が解除されてコピーされます。

GPT ディスクの先頭にある「回復パーティション」はWindows 8 以降をインストールすると作成されます。  
メーカー製コンピューターやインストールした環境によっては、Windows 8 以降であっても存在しないことがあります。

コピー元  
GPT ディスク

ディスク 0	ディスク 1	ディスク 2	ディスク 3	ディスク 4
300 MB 正常 (回復パ)	100 MB 正常 (EFI)	(C:) 60.60 GB NTFS 正常 (ブート、ページファイル、ク)	(D:) 48.83 GB NTFS 正常 (プライマリ パーティション)	(E:) 39.06 GB NTFS 正常 (プライマリ パーティション)

コピー先  
MBR ディスク

ディスク 1	ディスク 2	ディスク 3	ディスク 4	ディスク 5	ディスク 6
回復 (F:) 300 MB 正常 (ブタ)	システム (H:) 350 MB 正常 (アク)	(H:) 60.48 GB NTFS 正常 (プライマリ パーティ)	(I:) 48.83 GB NTFS 正常 (論理ドライブ)	(J:) 39.01 GB NTFS 正常 (論理ドライブ)	316.75 GB 空き領域

■ 未割り当て ■ プライマリ パーティション ■ 拡張パーティション ■ 空き領域 ■ 論理ドライブ



## MBR ディスクと GPT ディスク

MBR ディスクは、4 つのプライマリ（基本）パーティションを作成できます。

基本パーティションの1つを拡張パーティションとして、その中に論理パーティションを作成することで5つ以上のパーティションを作成することもできます。使用可能なサイズは最大2TB（テラバイト）までとなります。

ディスク 1	ディスク 2	ディスク 3	ディスク 4	ディスク 5	ディスク 6
(E:) 488.28 GB NTFS 正常 (プライマリ)	(F:) 488.28 GB NTFS 正常 (プライマリ)	(G:) 488.28 GB NTFS 正常 (プライマリ)	(H:) 241.14 GB NTFS 正常 (論理ドライブ)	(I:) 339.01 GB NTFS 正常 (論理ドライブ)	746.52 GB 未割り当て

2TB

MBR ディスクでは、2TB を超えた部分は使用できません。

GPT ディスクでは、最大128 個のプライマリパーティションを作成することができます。

GPT ディスクにしようとして Windows XP 32bit 版などの GPT ディスクに対応していない OS では使用できなくなります。MBR ディスクとは異なり、2TB 以上でも使用することができます。

ディスク 1	ディスク 2	ディスク 3	ディスク 4	ディスク 5
(E:) 488.28 GB NTFS 正常 (プライマリ パーティション)	(F:) 488.28 GB NTFS 正常 (プライマリ パーティション)	(G:) 488.28 GB NTFS 正常 (プライマリ パーティション)	(H:) 488.28 GB NTFS 正常 (プライマリ パーティション)	(I:) 841.27 GB NTFS 正常 (プライマリ パーティション)



## 「その他の設定」オプションについて (Lite 版は非対応)

2-2 ページ 4 のオプション設定画面の「その他の設定」オプションでは、該当する環境でパーティション調整のための設定を行います。

- ☐ 回復パーティションをディスクの先頭に移動 (M)
- ☐ 先頭パーティションの開始セクターを標準値 (2048) に補正 (F)

### ☐ 回復パーティションをディスクの先頭に移動

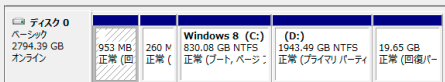
環境によっては、Windows 8 から Windows 8.1 にアップグレードを行うとシステムドライブ (C ドライブ) の後ろに新しく「回復パーティション」が作成されることがあります。このオプションにより、ハードディスクをコピーする際に「回復パーティション」がコピー先ディスクの先頭に移動します。オプションについては、1-8 ページの注意事項も参照してください。

#### 〔参考〕

以下は、メーカー製コンピュータで、Windows 8 がインストールされた環境を Windows 8.1 にアップグレードした際、ディスクの状態がどのように変化するかを表した例です。

#### Windows 8 のディスクの状態

右は Windows 8 がインストールされたメーカー製コンピュータのディスクの管理画面です。標準的な環境では、「回復パーティション」、「EFI システム パーティション」、「C ドライブ」の順にパーティションが並んでいます。



#### Windows 8.1 のディスクの状態

右は、Windows 8 から Windows 8.1 にアップデートしたときのディスクの管理画面です。「C ドライブ」と「D ドライブ」の間に「回復パーティション」が新たに作成されています。このパーティションは削除することができます。C ドライブと D ドライブの間にあるため、Windows の「ディスクの管理」画面でパーティションのサイズを変更することができなくなるなど使い勝手が悪い状態となります。



新しく作成された回復パーティション

#### HD 革命 / CopyDrive でコピー後のディスクの状態

右は、オプションを選択してコピーしたハードディスクのディスクの管理画面です。Windows 8.1 で新たに作成された「回復パーティション」は、先頭に移動しています。



移動した回復パーティション (回復パーティションが複数ある場合はすべて移動されます)

### ☐ 先頭パーティションの開始セクターを標準値 (2048) に補正

開始セクターが 2048 セクターでない場合、コピー先ハードディスクの先頭パーティションの開始セクターを自動的に 2048 セクターに補正するオプションです。

例えば、Windows XP がインストールされた標準的な環境は、先頭パーティションの開始セクターが 63 セクターから開始されています。Windows Vista 以降の OS がインストールされた標準的な環境は、開始セクターが 2048 セクターとなっています。このように、OS の違いやパーティションを作成した経緯によって異なる開始セクターを、2048 セクターにすることができます。



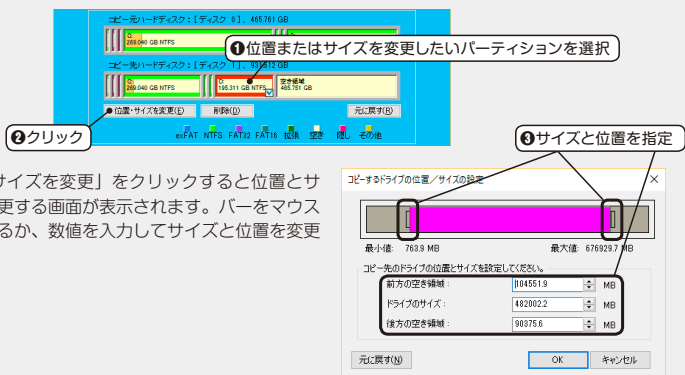
## コピー先ハードディスクのパーティション構成を変更する

コピー内容の確認画面では、コピーするパーティションの位置とサイズを変更することができます。また、コピー終了後にコンピューターをシャットダウンするかどうかを選択できます。



### □位置・サイズを変更

位置またはサイズを変更するには、コピー先ハードディスクの中で位置またはサイズを変更したいパーティションを選択し、「位置・サイズを変更」をクリックします。複数のパーティションを同時に操作することはできません。



「位置・サイズを変更」をクリックすると位置とサイズを変更する画面が表示されます。バーをマウスで操作するか、数値を入力してサイズと位置を変更します。

### □削除

コピー先ハードディスクの中でパーティションを選択して「削除」をクリックすると、コピー先ハードディスクからパーティションを削除できます。この時点では、まだ実際のパーティションは削除されませんが、画面上で削除された状態でコピーを開始すると最初にパーティションを削除してからコピーが行われます。

### □元に戻す

コピー先ハードディスクの構成が元の状態（操作する前の状態）に戻ります。



## 第3章

# どこでも起動



コピーしたハードディスクを別のコンピューターに接続して起動する機能・操作を「どこでも起動」といいます。

ここでは、「どこでも起動」を行う一連の操作を説明しています。

Lite 版では「どこでも起動」を行うことはできません。

# どこでも起動 (Lite 版は非対応)

「どこでも起動」とは、ドライブのコピーを行ったコンピューターとは別のコンピューターで起動を行う一連の操作の総称です。「どこでも起動」を行うには、コピーを行う前と別のコンピューターでの起動時にいくつかの作業が必要です。

## 「どこでも起動」の概要

「どこでも起動」を行うには、ドライブのコピーを行う前にデバイスドライバのデータベースファイルを作成します。その後ドライブのコピーを行います。

コピーしたハードディスクを別のコンピューターに接続して起動した際に必要なドライバが不足して Windows が起動できない場合、Windows PE 起動用ディスクでコンピューターを起動して環境修復ツールを利用します。あらかじめ作成したデータベースファイルから必要なドライバを読み込むことで、Windows を起動できるようにします。

なお、データベースファイルの作成に必要なドライバはメーカーサイトよりダウンロードしますので、インターネットに接続できる環境が必要です。

## 「どこでも起動」を行う際の注意事項

コピーしたハードディスクを別のコンピューターに接続して Windows を起動した場合は、Windows のライセンスを再認証する必要があります。

コピー元のコンピューター環境と、コピーしたハードディスクを接続したコンピューター環境が大きく異なる場合や、インストールされていたアプリケーションなどによっては、別のコンピューターに接続したハードディスクから起動できない場合があります。すべての環境における動作保証はできませんのでご了承ください。

## 「どこでも起動」を行う手順

HD 革命 / CopyDrive では、以下の手順で「どこでも起動」を行います。

- ①ドライバのデータベースファイルを作成します。
- ②ハードディスクのコピーを行います。
- ③別のコンピューターで、②でコピーしたハードディスクを接続します。
- ④別のコンピューターで Windows が正常に起動できない場合は、「HD 革命 / CopyDrive」の Windows PE 起動用ディスクで起動し、「環境修復ツール」で修復を行います。

### Point

Windows が正常に起動する場合は、Windows PE 起動用ディスクで起動して「環境修復ツール」を使用する必要はありません。

## データベースに登録されるドライバ

データベースファイルには次のドライバが標準で登録されます。これ以外のサードパーティー製の「ハードディスクドライバ」と「ネットワークドライバ」を追加登録することもできます。

### ・ハードディスクドライバ

Intel : ICH7 ~ ICH10 の SATA AHCI/RAID、  
ICH6 の一部 (ESB2 SATA AHCI/RAID)  
AMD : SB7xx、SB8xx  
nVidia : MCP61/68、MCP72/78

### ・ネットワークドライバ

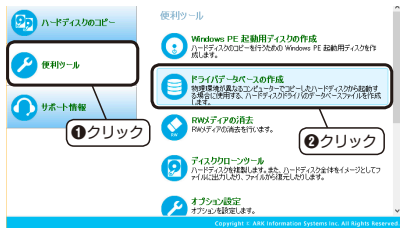
Intel  
RealTek  
Atheros

# ドライバデータベースの作成とコピーの実行 (Lite 版は非対応)

どこでも起動を行うためには、コピーを行う前にハードウェアのデータベースファイルを作成します。

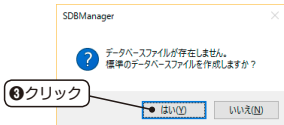
## 1 「ドライバデータベースの作成」の選択

Ark ランチャーで「便利ツール」→「ドライバデータベースの作成」を選択します。



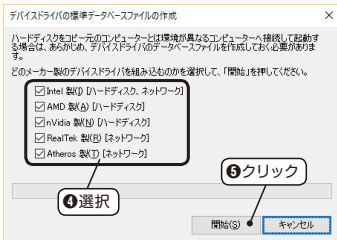
## 2 データベースファイル作成の確認

データベースファイルが存在しない場合は、次のメッセージが表示されます。



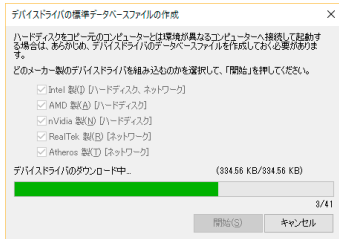
## 3 デバイスドライバの選択

デバイスドライバの製造元を選択します。製造元がわからない場合はすべて選択してください。



## 4 ダウンロードの開始

デバイスドライバのダウンロードが始まります。



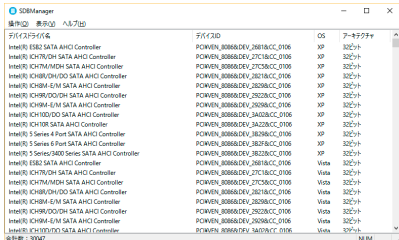
！ダウンロードする時間帯によっては、ダウンロード完了までに時間がかかる場合があります。

## 5 データベースの作成の完了と確認

データベースファイルの作成が完了すると、メッセージが表示されます。続いて、ドライブのコピーを行ってください。



登録されたドライバは一覧で確認できます。



## Point

OSの再インストールなどによってファイルが削除されない限り、再作成の必要はありません（再作成は「操作」→「標準のデータベースファイルを作成する」を選択して行うことができます）。

## 6

## ドライブのコピーを実行

コピー先のハードディスクを接続し、ドライブのコピーを行います。

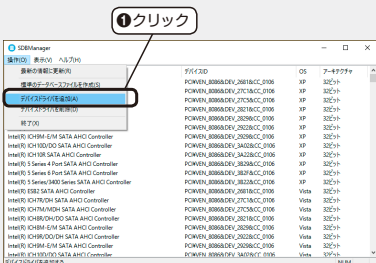


### 標準データベースにないドライブを追加する

標準データベースにないサードパーティー製のドライバを手動に追加登録することができます。ただし、追加できるドライバはハードディスク用のドライバのみとなります。その他のドライバは追加できません。また、ドライバによっては正しく追加できないものがあります。ドライバは通常ハードウェアに添付されていますが、ハードウェアメーカーのWebサイトからのダウンロードが必要な場合もあります。詳しくはハードウェアメーカーのWebサイトをご覧ください。ハードウェアメーカーにお問い合わせください。

ドライバの一覧画面で、「操作」メニューから「デバイスドライバを追加」を選択します。

セットアップ情報ファイルの一覧が表示されますので、デバイスを選択します。



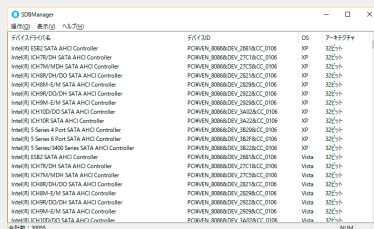
①クリック



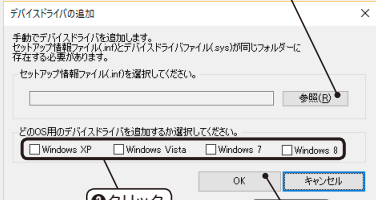
③クリック

「参照」をクリックし、ドライバ情報ファイル（.infファイル）を選択します。情報ファイル（.inf）とドライバ本体（.sys）は、同じフォルダにおいてください。

選択したドライバが一覧に追加されます。



②クリックして inf ファイルを選択



④クリック

④クリック

# 環境修復ツール (Lite 版は非対応)

コピーしたハードディスクを別のコンピュータに接続して Windows を起動した際、OS の起動に必要なドライバが不足して起動できない場合、Windows PE 起動用ディスクで起動し、環境修復ツールでドライバをインストール (追加) することができます。

## 1 ハードディスクを接続

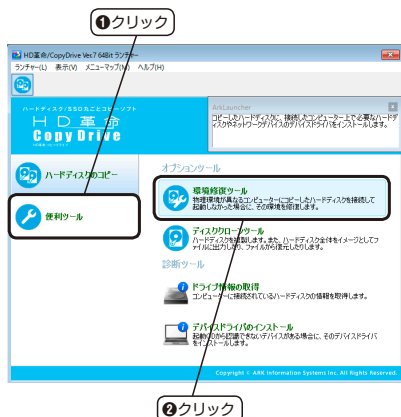
コピーしたハードディスクを別のコンピュータに接続します。

## 2 環境修復ツールを選択

Windows PE 起動用ディスクをドライブに挿入した状態でコンピュータを起動します (1-5 ページ)。

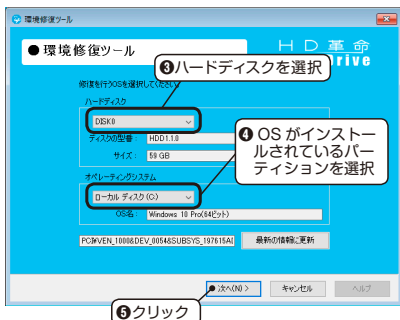
## 3 ドライブを選択

Ark ランチャーで「便利ツール」→「環境修復ツール」を選択します。



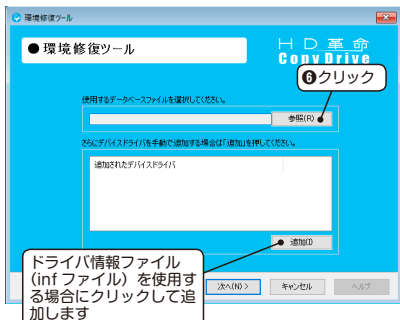
## 4 ディスクと OS の選択

復元した OS がインストールされているハードディスクとパーティションを選択します。

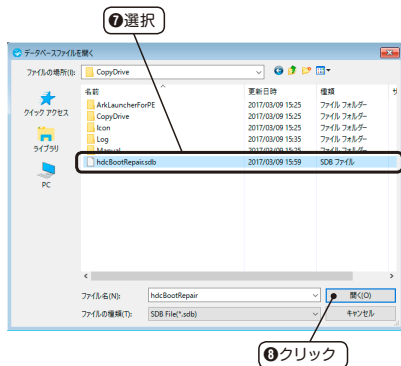


## 5 ドライバの登録

作成したデータベースファイル (SDB ファイル) を指定するか、Windows の起動に必要なハードウェアのドライバ情報ファイル (inf ファイル) を選択します。



HD 革命 / CopyDrive のインストール  
フォルダー ( \* : ¥Program Files¥ARK  
Information Systems Inc¥CopyDrive¥ ) の  
「hdcBootRepair.sdb」 ファイルを指定します。



## 6

## コンピューターの再起動

コンピューターを再起動し、OS が起動でき  
るかを確認します。



- ドライバ情報ファイル (inf ファイル) を使用  
● する場合は、起動する OS 用のドライバをイン  
● ストールしてください。
- 例えば、システムパーティションのコピー  
● を行った OS が Windows 10 だった場合、  
● Windows XP 用のドライバをインストールし  
● ても OS を起動することができません。ドラ  
● イバは通常ハードウェアに添付されていますが、  
● ハードウェアメーカーの Web サイトからのダ  
● ウンロードが必要な場合もあります。
- 詳しくはハードウェアメーカーの Web サイト  
● をご覧になるか、ハードウェアメーカーにお問  
● い合わせください。

# 第 4 章

## 便利ツール



ここでは、HD 革命 / CopyDrive を、より有効に利用していただくための便利ツールについて説明しています。

# Windows PE 起動用ディスクの作成 (Lite 版は非対応)

Ark ランチャー、またはセットアップメニューから、Windows PE で操作を行うための起動用ディスクを作成することができます。作成される Windows PE 起動用ディスクに含まれる Windows PE のバージョンは、Windows 10 の場合は 10.0、Windows 8.1 の場合は 5.0、Windows 7 では 3.0 となります。

Secure Boot (セキュアブート) が有効な環境では、Windows 8.1 以降の 64bit 版 OS 上で作成した Windows PE 起動用ディスクでなければコンピューターを起動できません。Windows PE 起動用ディスクを作成する Windows と使用する環境に注意してください。

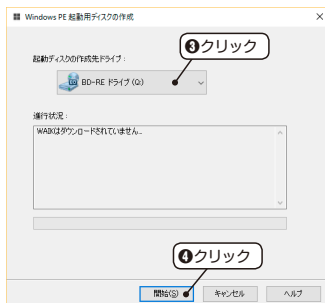
## 1 「Windows PE 起動用ディスクの作成」を選択

Ark ランチャーで「便利ツール」→「Windows PE 起動用ディスクの作成」を選択します。



## 2 作成先ドライブの選択

空のメディアを挿入したドライブを選択します。



## 起動用 USB メモリーの作成

「Windows PE 起動用ディスクの作成」機能では、CD/DVD メディアのほかに USB メモリーなどのリムーバブルディスクも指定できます。ここで作成した USB メモリーは、CD/DVD メディアと同様に Windows PE が搭載された起動用 USB メモリーとして、操作を行うことができるようになります。起動用 USB メモリーを作成する場合はドライブ名欄で、USB メモリーのドライブを選択してください。



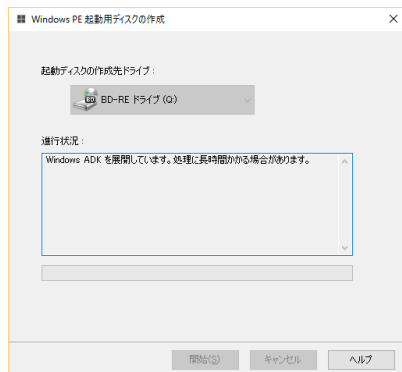
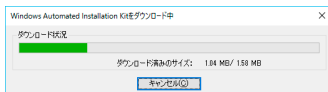
- 起動用 USB メモリー作成時は USB メモリー内のデータが削除されます。元に戻すことはできませんので、必要なデータが残っていないことを確認してから作成を開始してください。



## 3

## ダウンロード開始

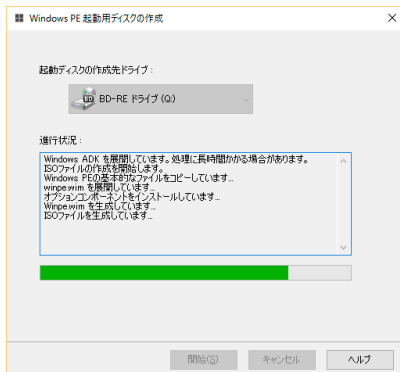
展開に必要なファイルのダウンロードが始まり、ダウンロード後にファイルが展開されます。この処理は時間がかかる場合があります（環境により異なりますが 30 分～2 時間程度の時間がかかります）。



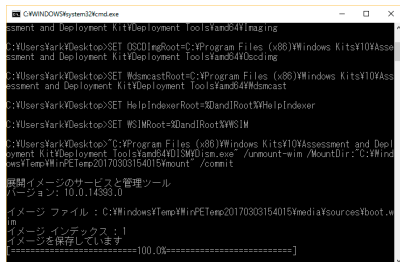
## 4

## ISO ファイルの作成

ファイルの展開が終わると ISO ファイルの生成が開始します。

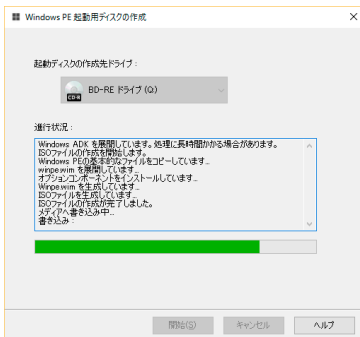


作成中はコマンドプロンプトの画面が開き、処理が行われます。



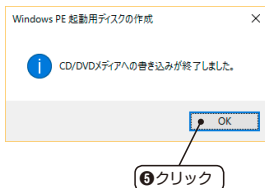
## 5 メディアへの書き込み

メディアへの書き込みが自動的に開始します。



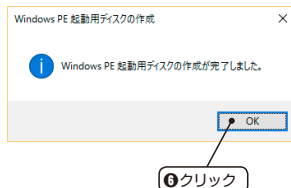
## 6 メディアへの書き込み終了

メディアへの書き込みが終了すると次のメッセージが表示されますので、「OK」をクリックします。起動用 USB メモリーを作成する場合は、このメッセージは表示されません。



## 7 起動用ディスクの作成完了

Windows PE 起動用ディスクの作成が完了すると次のメッセージが表示されますので、「OK」をクリックします。

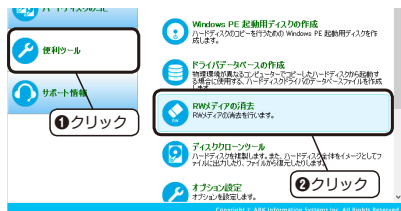


# CD/DVD/BD メディアの消去 (Lite 版は非対応)

起動 CD の作成時に CD-RW、DVD±RW、BD-RE メディアを使用することができますが、使用する前にメディアの消去を行う必要があります (CD-R、DVD±R、BD-R メディアの場合は消去の必要はありません)。

## 1 「RW メディアの消去」を選択

Ark ランチャーで「便利ツール」→「RW メディアの消去」を選択します。

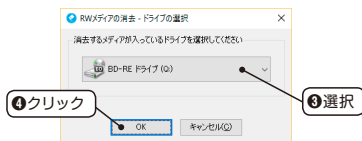


## 2 メディアを挿入

消去するメディアを挿入します。

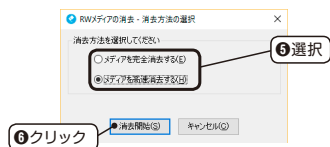
## 3 ドライブを選択

消去するメディアを挿入したドライブを選択します。



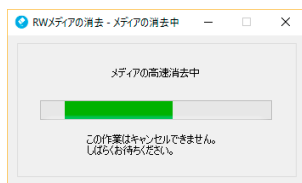
## 4 消去方法を選択

消去方法を選択します。



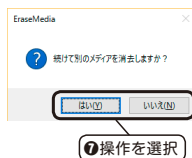
## 5 消去の実行

消去中は進行状況が表示されます。完全消去の場合は完了までに時間がかかります。



## 6 消去の終了

消去終了後、次のメッセージが表示されます。別のメディアを消去するときは「はい」、メディアの消去を終了するには「いいえ」をクリックします。



### Point

#### RW メディアの消去方法

- メディアを完全消去する  
メディア全体を完全に消去します。メディア全体を消去するため時間がかかります。
- メディアを高速消去する  
メディアのトラック情報を消去することにより高速に消去します。

# ディスククローンツール (Lite 版は非対応)

ディスククローンツールは、まったく同じ状態のハードディスクを複製するための管理者向けツールです。HD 革命 /CopyDrive のコピーとは異なり、ディスクの ID を含めた全セクターをコピーしますので、クローンを行ったハードディスクの取り扱いには注意が必要です。

コピー元より大きなハードディスクにコピーする場合、また、小さな SSD などにコピーする場合など、環境を移行するためのコピーを行いたいときは 2-3 ページの操作で通常のコピーを行ってください。

## 重要 はじめにお読みください

- ・クローン終了後は、必ず一度コンピュータの電源を切ってください (Windows PE の場合は再起動しないように注意してください)。電源が切れたことを確認し、クローン先のディスクを取り外してください。クローン元とクローン先で同じ ID をもったディスクが 2 台接続された状態で Windows を起動してしまうと、次の起動時から Windows が正常に起動できなくなります。また、クローン先ハードディスクから起動した後も、クローン元としたディスクは接続しないようにしてください。
- ・ディスクのクローンは、ハードディスクのすべてのセクターをコピーしますので、HD 革命 /CopyDrive の通常コピーを行う場合よりも多くの時間がかかります。
- ・イメージファイルを作成する場合は、クローン元とは別のハードディスクにクローン元ディスクサイズ以上の空き領域が必要です (例: 3TB のディスクでは 3TB のイメージファイルを作成します)。
- ・Windows が起動しているハードディスクのクローンを行う場合、Windows が使用中のファイルにおいては正常にクローンが作成できない可能性があり、この場合はクローン先のハードディスクから Windows が起動できないことがあります。そのため、Windows が起動しているハードディスクのクローンは、Windows PE 起動用ディスクでコンピュータを起動して行ってください。

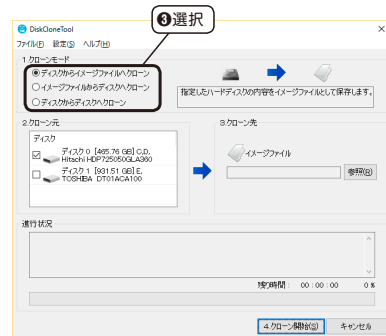
## 1 ディスククローンツールを起動

Ark ランチャーで「便利ツール」→「ディスククローンツール」を選択します。



## 2 クローンモードを選択

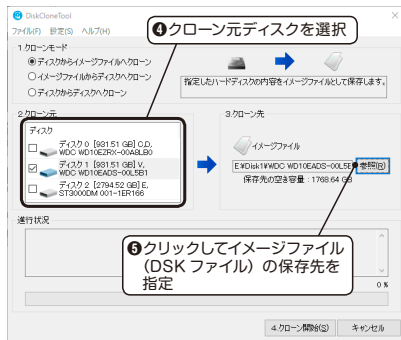
ディスクからディスクへのクローンを行うか、イメージファイルを作成してクローンを行うか (イメージファイルが作成済みの場合はイメージファイルからディスクへ) のいずれかを選択します。



### 3 クローン元とクローン先を選択

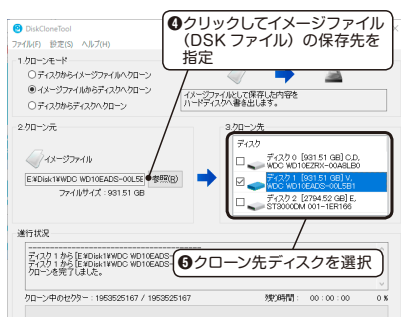
#### ●ディスクからイメージファイルへクローンの場合

クローン元ディスクを選択し、イメージファイル (DSK ファイル) の保存先としてクローン元とは別のディスクを指定します。



#### ●イメージファイルからディスクへクローンの場合

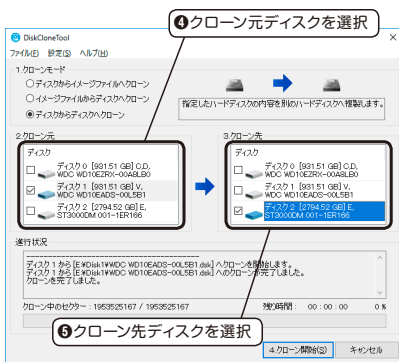
作成したイメージファイル (DSK ファイル) を選択し、クローン先とするディスクを指定します。



#### Point

ファイル名の初期値は、クローン元ディスクの型番になっています。

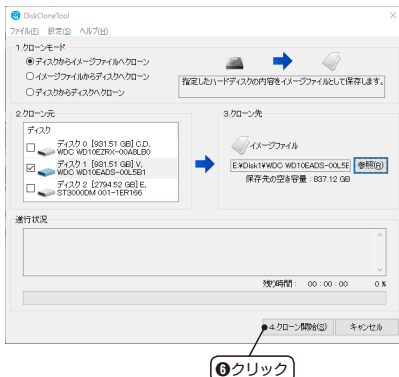
#### ●ディスクからディスクへクローンの場合 クローン元ディスクとクローン先ディスクを選択します。



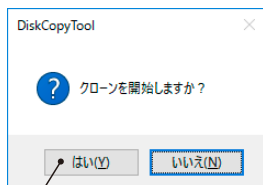
### 4 クローンの開始

「クローン開始」をクリックします。

下の画面は「ディスクからイメージファイルへクローン」のとき。  
他の場合も同様に「クローン開始」をクリック。



「はい」をクリックするとクローンが開始します。



①クリック

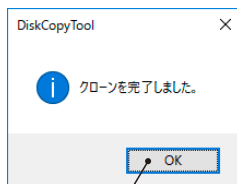


クローン先のハードディスクが空でない場合は、パーティションを消去してからクローンが行われます。元に戻すことはできませんので、間違いないかよく確認してください。

6

## クローンの完了

クローン完了後は次のメッセージが表示されますので「OK」をクリックします。



①クリック

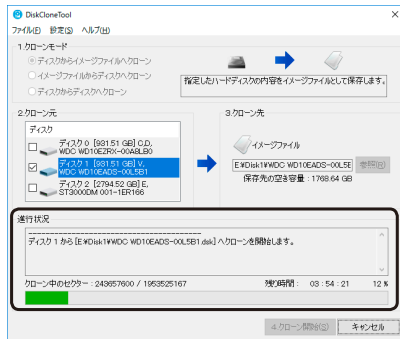


クローンを行った後は、コンピューターの電源を切ってクローン先のハードディスクを取り外してください。

5

## クローンの実行

クローン中は進行状況が表示されます。



# オプション設定 (Lite 版は非対応)

オプション設定画面では、コピー方式や一時ファイルのサイズを変更することができます。

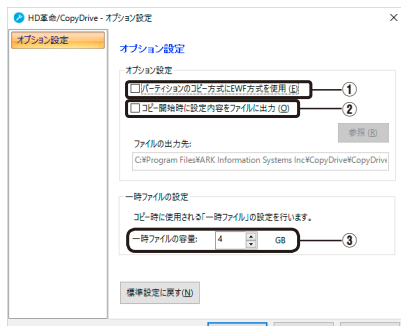
## 1 「オプション設定」を選択

Ark ランチャーで「便利ツール」→「オプション設定」を選択します。



## 2 オプションを設定

コピー方式の変更や、コピーを行う際の設定内容のファイル出力について設定することができます。



### ①パーティションのコピー方式に EWF 方式を使用

EWF 方式は HD 革命 /CopyDrive Ver.5 以前で使用されていたコピー方式となります。

Ver.6 以降、新しいコピー方式を使用しているため、通常はこのオプションを使用する必要はありません。

新しいコピー方式で問題が出る場合のみこのオプションにチェックを入れてコピーを行ってみてください。



- EWF 方式のコピーを行う際には、いくつかの
- 注意事項があります。1-8 ページを確認してく
- ださい。

### ②コピー開始時に設定内容をファイルに出力

(Lite 版は非対応)

このオプションを指定することで、コピーするハードディスクの設定をファイルに出力できます。出力したファイルを、コマンドラインの引数として指定することによりコピーを行うことができます。ただし、管理者向けの機能のため、通常は使用する必要はありません。コマンドラインからの操作は、4-10 ページを参照してください。

### ③一時ファイルの設定

コピー中に変更されたファイルは、一時ファイルに格納されます。この一時ファイルのサイズは 1 ~ 100GB の間で指定できますが、コピーを行うには、コピー元ハードディスクに、ここで指定したサイズの空き領域が必要となります。変更量が指定した一時ファイルの容量を超えるとコピーは途中で中止されます。



## コマンドラインでの操作について (Lite 版は非対応)

HD 革命 /CopyDrive では、コマンドラインでコピーを行うことができます。コマンドラインでの操作は管理者向けの機能となりますので、通常は使用する必要はありません。Ark ランチャーからメイン画面を起動してコピーを行うか、Windows PE 起動用ディスクで起動してコピーを行ってください。

### ■コマンドラインについて

HD 革命 /CopyDrive のインストールフォルダー (デフォルトでは、C:\Program Files\Ark Information Systems Inc\CopyDrive) に、本体プログラム「HDCopy.exe」があります。行いたい操作に対応する引数を指定します。

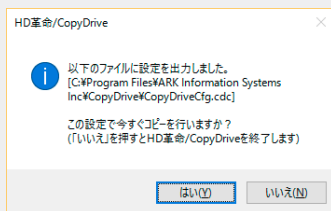
### ■コマンドラインの仕様

コマンドラインでコピーを実行するには、以下の方法があります。

- (1) 設定ファイルを指定
- (2) 引数で指定

#### (1) 設定ファイルを指定

4-9 ページのオプション設定で「コピー開始時に設定内容をファイルに出力」を指定すると、「CDC」という拡張子で設定ファイルが出力されます。



このファイルを引数に指定すると、自動的に設定ファイルの内容を読み込んでコピーが開始します。引数に設定ファイルを指定した場合、それ以外の引数は一切無視されます。

> HDCopy.exe [ 設定ファイルのフルパス ]

※ 設定ファイルの拡張子「CDC」を HDCopy.exe に関連付けすれば、設定ファイルをダブルクリックしてコピーを開始することも可能です。

(例)

> HDCopy.exe C:\Program Files\Ark Information Systems Inc\CopyDrive \CopyDriveCfg.cdc

(次ページに続く)



## (2) 引数で指定

設定ファイルを使用せずに、必要な情報を引数で指定してコピーを行います。

```
> HDCopy.exe /Copy [コピー元の指定] [コピー先の指定] [オプション(複数指定可)]
```

### ●コマンドラインでのオプション

#### /Copy

コマンドラインでコピーするために指定します。このオプションは省略できません。

#### /S:<ディスク番号>

コピー元ハードディスクを指定します。コロンの後にディスク番号を記述します。ディスク番号は「0～9」までとなり、それ以上の番号が割り当てられたハードディスクはコピーできません。このオプションを省略すると、コピー元ハードディスクは「起動中の Windows を含むディスク (起動ディスク)」に設定されます。

#### /D:<ディスク番号>

コピー先ハードディスクを指定します。コロンの後にディスク番号を記述します。ディスク番号は「0～9」までとなり、それ以上の番号が割り当てられたハードディスクはコピーできません。また、起動中のディスクをコピー先に指定すると、エラーとなりコピーは実行できません。このオプションは省略することができません。

#### /Resize

このオプションを指定すると、コピー先ハードディスクの大きさに合わせて拡大コピーを行うことができます。この時、各パーティションサイズは自動的に割り当てられます。このオプションを省略した場合は、コピー元と同じサイズでコピーが行われます。なお、コピー先ハードディスクの方が小さい場合は自動的にサイズを割り当ててコピーを行います。

#### /Shutdown

コピー終了後にシャットダウンを行います。このオプションは省略可能です。

### ■操作例 1

コピー先ハードディスク (ディスク番号が 1) に、起動ディスク (ディスク番号が 0) をコピー元としてそのままのサイズでコピーを行う

```
> HDCopy.exe /Copy /D:1
```

### ■操作例 2

コピー元のディスク番号が 1、コピー先ハードディスクのディスク番号が 2 で、自動サイズ合わせを行い、コピー終了後にシャットダウンする

```
> HDCopy.exe /Copy /S:1 /D:2 /Resize /Shutdown
```

# S.M.A.R.T. 情報の取得 (Lite 版は非対応)

S.M.A.R.T. 情報取得ツールを使い、ハードディスクの健康状態を診断することができます。

## 1 「SMART 情報の取得」を選択

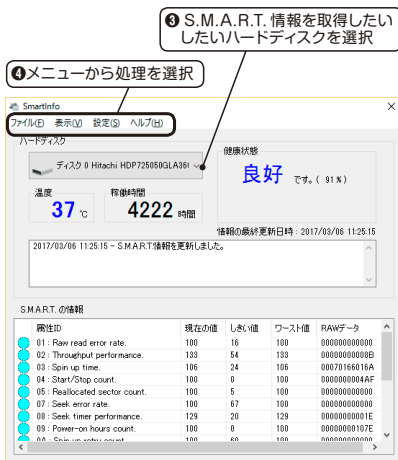
Ark ランチャーで「便利ツール」→「SMART 情報の取得」を選択します。



## 2 S.M.A.R.T. 情報の取得

メニューから、S.M.A.R.T. 情報のファイル出力、温度グラフの表示、設定の変更などを行うことができます。

スタートアップに登録することもできます。



## S.M.A.R.T. 情報の取得ツールとは

S.M.A.R.T. 情報の取得ツールは、ハードディスクに搭載されている自己診断機能である S.M.A.R.T. (Self-Monitoring, Analysis and Reporting Technology) の技術を利用して、ハードディスクの健康状態を診断するためのソフトウェアです。

S.M.A.R.T. 情報の取得ツールでは以下のことを行うことができます。

- ① S.M.A.R.T. データ (属性値) の取得と表示
- ② ハードディスクの温度の表示 / 監視
- ③ 取得したデータを元に、ハードディスクの健康状態の表示 / 監視

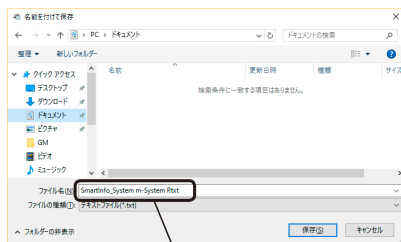
ハードディスクの健康状態から、コピーやバックアップ、ハードディスクの交換などを行う目安とすることができます。



- SMART 情報を取得できるのは、IDE、SATA 接続のハードディスクとなり、USB や IEEE1394 接続のハードディスクには対応していません。また、SSD の情報を取得することはできません。コンピュータ環境やハードディスクによっては、IDE、SATA 接続であっても情報を取得できないことがあります。

### 3 S.M.A.R.T. 情報の出力・設定

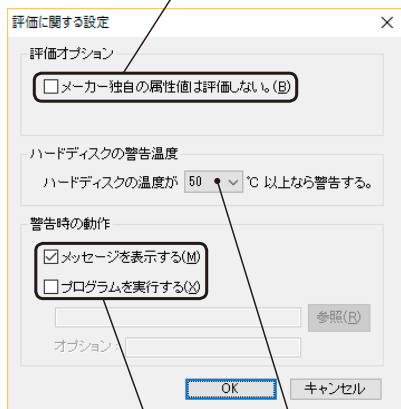
#### ● S.M.A.R.T. 情報をファイルに出力



ファイル名を変更する場合に入力

#### ● 評価に関する設定

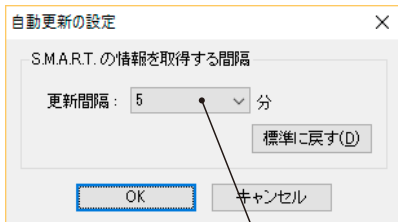
チェックすると、ハードディスクメーカー独自の情報の取得・表示がされません



警告する温度の設定

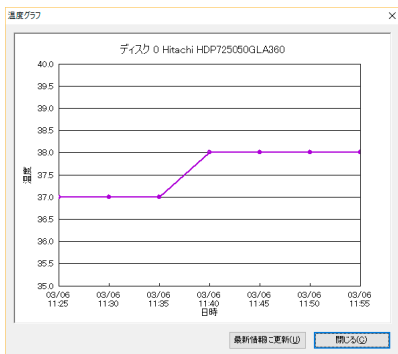
温度および健康状態が警告値に達したときに、メッセージを表示し、指定したプログラムを実行することが可能 (「参照」でプログラムを指定)

#### ● 自動更新の設定



更新間隔を1分単位で指定

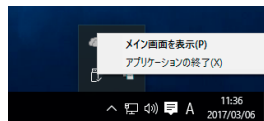
#### ● 温度グラフ



### 4 S.M.A.R.T. 情報取得ツールの終了

S.M.A.R.T. 情報の取得ツールは、起動すると常駐してタスクトレイにアイコンが表示されます。

終了するには、タスクトレイのアイコンを右クリックして表示されるメニューから「アプリケーションの終了」を選択してください。



# ドライブ情報の取得

コンピュータに接続してあるハードディスクドライブの情報を取得し、表示することができます。

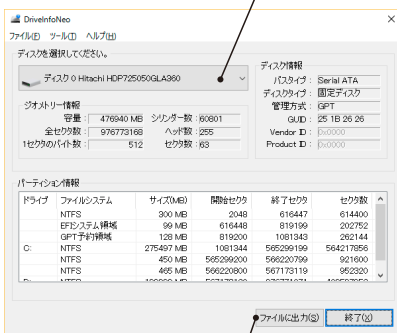
## 1 「ドライブ情報の取得」を選択

Ark ランチャーで「便利ツール」→「ドライブ情報の取得」を選択します。



## 2 ドライブ情報の取得

### ③ 情報を表示させたいディスクを選択



### Point

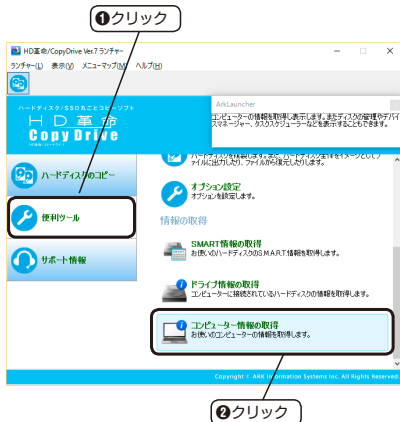
「ツール」メニューを開き、Windowsの起動に関わる情報（GUID、MBR）を操作することができますが、Windowsの状態に問題がないときは使用しないでください。

# コンピューター情報の取得

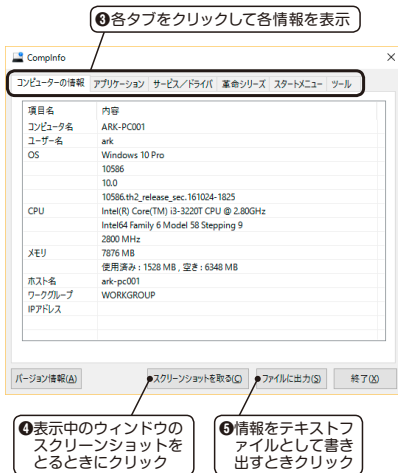
コンピューターに関する情報を取得し、表示することができます。

## 1 「コンピューター情報の取得」を選択

Ark ランチャーで「便利ツール」→「コンピューター情報の取得」を選択します。



## 2 コンピューター情報の取得

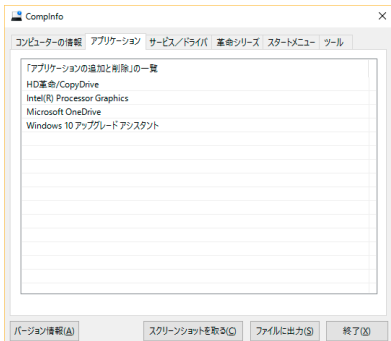


### Point

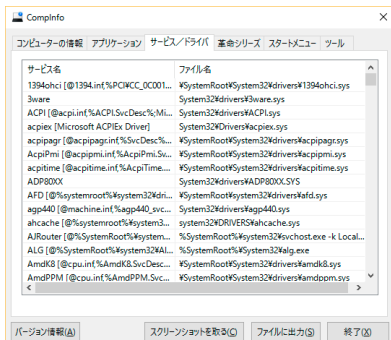
「スタートメニュー」タブでチェックしたメニューを Windows のデスクトップに作成することができます。「ツール」タブで「ディスクの管理」「タスクスケジューラ」ほかの Windows の機能呼び出すことができます。



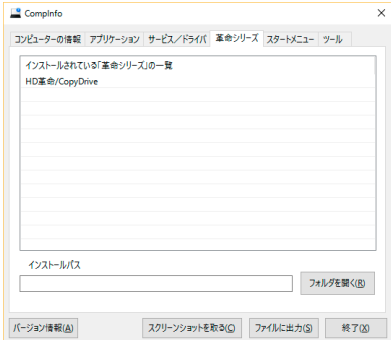
「コンピュータの情報」タブ



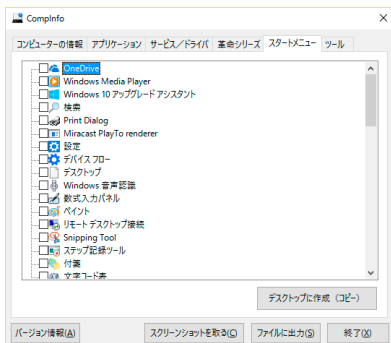
「アプリケーション」タブ



「サービス/ドライバ」タブ



「革命シリーズ」タブ



「スタートメニュー」タブ



「ツール」タブ

# アップデータの確認 (Lite 版は非対応)

インターネットに接続できる環境にある場合、製品によっては起動時に「更新確認ツール」が起動することがあります。この場合、製品の最新アップデータが公開されていますので、「更新確認ツール」からアップデータのダウンロードとインストールを行うことができます。アップデータのダウンロードを行うには、製品の登録が必要です。

## 弊社製品の登録と「更新確認ツール」について

### ●弊社製品を初めて登録する場合

弊社製品を初めてユーザー登録する場合は、「更新確認ツール」で入力したメールアドレスがそのまま新規のユーザーIDとして登録されますので、間違いがないように確認いただき入力してください。なお、「更新確認ツール」によるユーザー登録は「仮登録」の状態となり、メールアドレス、パスワード、シリアルナンバーのみが登録されます。

「仮登録」の状態は、アップデータのダウンロードは可能ですが、サポートへの問い合わせやオンラインショップでの優待販売等のサービスがご利用いただけません。

弊社 Web サイト (<http://www1.ark-info->

●「更新確認ツール」で登録を行うと、入力したメールアドレス宛に「自動更新の手続き完了のお知らせ」という件名でメールが送信されます。このメールが届いていない場合は、入力したメールアドレスが間違っている可能性があります。

●「本登録」には、「更新確認ツール」で入力したメールアドレスとパスワードの入力が必要となりますので、メールアドレスの間違いにより「本登録」が行えない場合は、シリアルナンバーをご用意いただき、ユーザーサポートまでご連絡ください。

[sys.co.jp/user/package/index.html](http://sys.co.jp/user/package/index.html)) にて残りの項目を入力して「本登録」を行ってください。「本登録」を行う場合は、「すでにご登録済みの方」で「製品追加登録」から、「仮登録」で入力したメールアドレス、パスワードを入力して登録を行ってください。

### ●すでに弊社の他製品や他バージョンで登録いただいている場合

すでにユーザー登録されている場合は、登録されているメールアドレスとパスワードを入力することで製品の追加登録を行います。

ユーザー登録されているメールアドレスと異なるメールアドレスを入力した場合は、別のユーザーIDとして登録されます。この場合、前述の「弊社製品を初めて登録する場合」と同様となります。

●アップデータのダウンロードや優待販売は、登録したシリアル番号とメールアドレス、パスワードが一致しないとご利用いただくことができません。問題がなければ、「更新確認ツール」の画面ですでにユーザー登録しているメールアドレスとパスワードを入力し、同じユーザーIDへの製品追加登録という形にしてください。

## 「更新確認ツール」による登録と確認の流れ

### 1 更新確認ツール

「更新確認ツール」でメールアドレスとパスワードを入力します。

製品をご利用いただきありがとうございます。①メールアドレスとパスワードを入力

製品名:

ユーザ登録情報

ユーザID(メールアドレス)

パスワード

パスワード(確認用)

シリアル番号

②入力後にクリック ユーザ登録

ユーザIDにはメールアドレス(6～60文字)を入力してください。  
パスワードは半角英数字6～18文字です。

弊社WEBにて「ユーザ登録」がお済みの場合にはユーザ登録したユーザIDを入力してください。確認のメールを「ユーザID」欄にお送りしますので、スペル間違いなど無いようお願いいたします。

閉じる

### 2 更新処理への移動

登録が終了するとメッセージが表示されますので、「OK」をクリックします。

AutoUpper

レジストリ登録が完了しました。更新処理に移動します。

①クリック OK

### 3 更新処理

画面が変わりますので、「更新」をクリックします。

更新確認ツール

ユーザ登録情報

ユーザID

パスワード

シリアル番号

更新データ問合せ完了

更新データがあります。更新を行う場合は「更新」ボタンを押してください。

①クリック 更新 閉じる

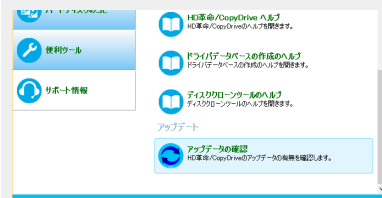
今日は更新しない

### 4 ダウンロードとインストール

アップデートファイルが自動的にダウンロードされ、アップデートのインストールが開始されます。

#### Point

「更新確認ツール」は、Ark ランチャーの「サポート情報」→「アップデートの確認」から起動することができます。



更新確認ツール

更新データがありませんでした。終了します。

更新 閉じる

キャンセル



# 第 5 章

## 参考資料



ここには、HD 革命 / CopyDrive をお使いいただく上で、参考にしていただくための資料がまとめてあります。

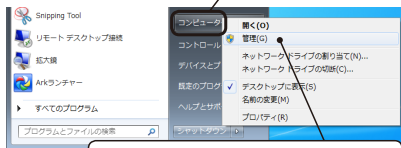
# ディスクの初期化とパーティションの作成

## 1 ディスクの初期化

初期化したいハードディスクを接続し、「ディスクの管理」を起動します。

### ● Windows 7 の場合

①「スタート」をクリックし、「コンピューター」を右クリック

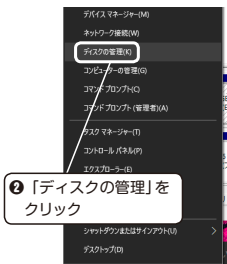


②「管理」をクリックの後、コンピューターの管理画面で「ディスクの管理」をクリック

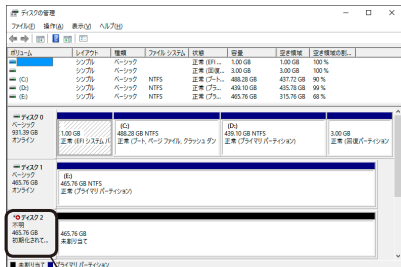
### ● Windows 10/8.1/8 の場合



①画面左下にマウスポインタを移動し、マウスを右クリック (左ではありません)

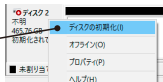


②「ディスクの管理」をクリック

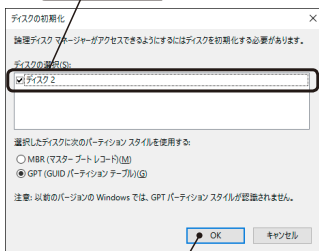


③「初期化されていません」の表示部を右クリック

④表示されたメニューで「ディスクの初期化」をクリック



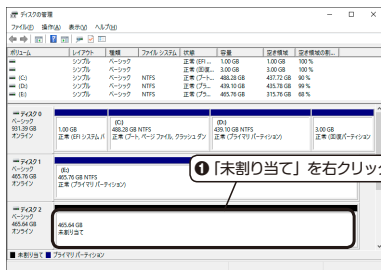
⑤ディスクを選択



⑥「OK」をクリックすると、初期化が開始

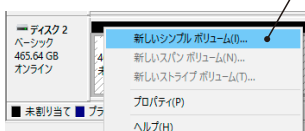
## 2 パーティションの作成

初期化に続いて、「ディスクの管理」からパーティションを作成することができます。

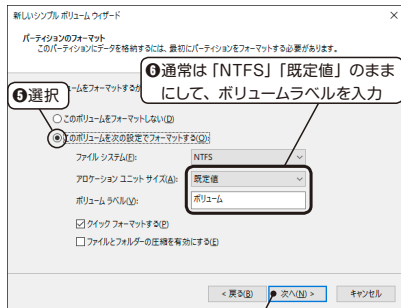
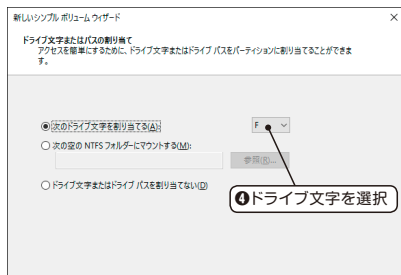
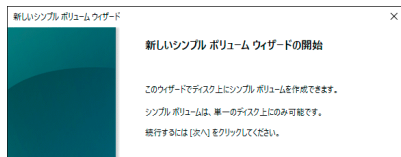


①「未割り当て」を右クリック

②「新しいシンプルボリューム」をクリック



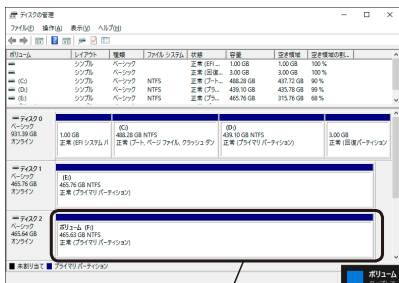
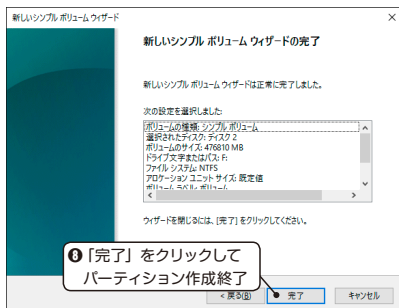
「新しいシンプル ボリューム ウィザード」が起動します。



①クリックするとパーティション作成開始

## Point

サイズが 32GB 以上のときは「FAT32」は選択できません。  
「クイックフォーマットする」にチェックを入れると、フォーマット時間を短縮できます。



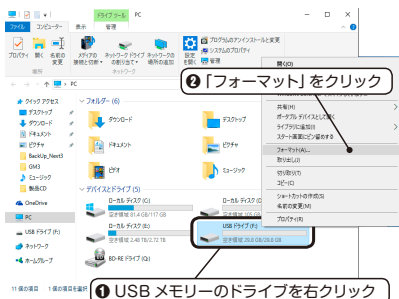
「フォーマット中」と表示されている間は、パーティション操作はせずに、終了するまでお待ちください。

# USB メモリーのフォーマット

USB メモリーをフォーマットするには、以下の操作を行います。

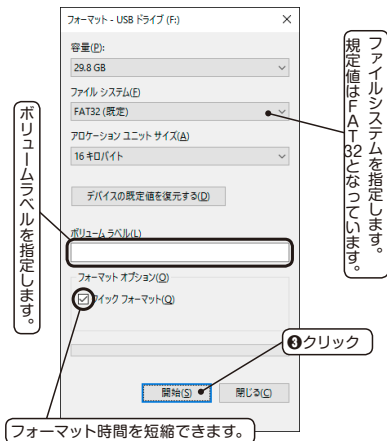
## 1 USB メモリーの選択

コンピュータ (マイ コンピュータ) で USB メモリーのドライブを右クリックします。



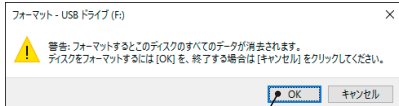
## 2 オプションの選択

オプションを指定して「開始」をクリックします。

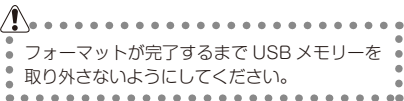
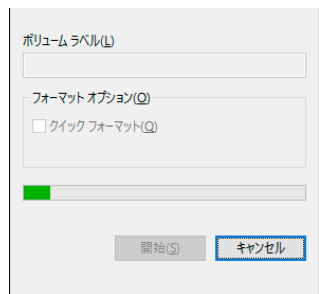


## 3 USB メモリーのフォーマット

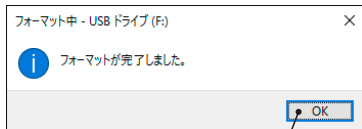
フォーマット開始前に確認メッセージが表示されます。



フォーマット中は進行状況が表示されます。



「OK」をクリックして、フォーマットが完了です。



# 付 録



主に、ユーザーサポートに関連する情報を掲載しています。

# ユーザーサポートのご利用にあたって

## お問い合わせにあたって

### ①操作方法・トラブル内容について調べる

インターネット接続が可能な場合は、FAQ（よくあるお問い合わせ）をご覧ください。操作上の注意点、トラブル内容と対処方法などが記載されています。

<http://www1.ark-info-sys.co.jp/support/index.html>

### ②アップデータをダウンロードする

最新アップデータを適用することにより、改善場合があります。下記からダウンロー

ドしてください。

<http://www1.ark-info-sys.co.jp/download/index.html>

### ③弊社サポートへ問い合わせる

上記によっても解決しないときは、弊社ユーザーサポートまでお問い合わせください。

■ TEL : 03-3234-9251（祝祭日・弊社休業日を除く月曜から金曜日の10～12時、13～17時）

■ メールフォーム : [https://www2.ark-info-sys.co.jp/ARK\\_N/MailSupport/MainGate.asp](https://www2.ark-info-sys.co.jp/ARK_N/MailSupport/MainGate.asp)

※ お問い合わせには、ユーザー登録を行われたメールアドレスとシリアルナンバーが必要となります。

※ 弊社製品のサポート終了日は、Web サイト (<http://www1.ark-info-sys.co.jp/support/all/lifecycle/index.html>) でご確認ください。

※ Microsoft によるサポートが終了した OS に関しては、弊社製品のサポートも終了とさせていただきます。

※ メールフォームへのお問い合わせは、回答に3～5営業日ほどお時間をいただく場合があります。あらかじめご了承ください。

※ 午前中や営業時間終了直前の時間帯は、お問い合わせが集中し電話がつながりにくくなります。その際は、恐れ入りますが時間をずらしてお電話をいただきますようお願いいたします。

※ お客様の個人情報は、弊社情報セキュリティ方針に従い適切な保護を行います。詳しくは弊社 Web サイトをご覧ください。



- 弊社で動作保証している環境以外（自作のコンピューター、ショップメイドのコンピューター、CPU オールバックロック、その他ハードウェアの改造など）で不具合が発生するケースにおいては、パーツの相性や、デバイスドライバがその一因となることがあります。
- その場合、すべてのパーツの組み合わせの相性テストは不可能であり、弊社ユーザーサポート環境にて再現性のない場合や、相性により発生していると思われる問題につきましては対応が不可能な場合もあります。ご了承ください。
- 他社製品、シェアウェアなどのパーティション操作ソフトウェア（マルチブートユーティリティなど）との共存は原則としてサポート外とさせていただきます。

# HD 革命 /CopyDriveVer.7 ユーザーサポートについて

■必ずユーザー登録終了後にユーザーサポートをお申し込みください。

■この用紙でユーザー登録はできません。ユーザー登録は弊社 Web サイトからお願いします。

■お電話によるお問い合わせの際は、以下の内容をあらかじめご記入いただき、お問い合わせください。

## ●お客様のお名前・ご連絡先・対象の製品（※はお電話の際にお伺いします）

※お名前： .....

※TEL： .....

※E-Mail アドレス： .....

※ シリアルナンバー： .....

本製品アップデート適用の有無：有・無（Ver. ....）

## ●お使いのコンピューターについて（わかる範囲でご記入ください）

メーカー名： .....

機種名とシリアルナンバー： .....

メモリー（RAM）容量： .....

Windows の種類

・ Windows 10 Home / Windows 10 Pro（バージョン..... OS ビルド.....）

・ Windows 8.1 / Windows 8.1 Pro（8.1 Update の有無 有・無）

・ Windows 7 Starter / HomePremium / Professional / Ultimate（SP.....）

・ 32 ビット版 / 64 ビット版

接続されている周辺機器：

ボード、カードをご利用の場合

・ I/F：SCSI、eSATA、RAID、USB2.0、USB3.0、IEEE1394

その他( ..... )

・ メーカー、型番、チップセット： .....

## ●お使いのソフトウェアについて（わかる範囲でご記入ください）

インストールされているアプリケーションプログラム： .....

.....  
.....  
.....  
.....

### ●発生した現象について

・ エラーメッセージ: \_\_\_\_\_

・現象：\_\_\_\_\_



・ エラーメッセージ : .....

・ 現象 : .....

・ エラーメッセージ: \_\_\_\_\_

・現象：

・ エラーメッセージ: \_\_\_\_\_

・現象：

- ・本ユーザーズ・マニュアルはPDF ファイルとして提供しており、Adobe Reader（Adobe 社の閲覧ソフトウェア）を使用し、オンラインマニュアルとしてご利用いただくことができます。

- ・Microsoft<sup>®</sup>, Windows<sup>®</sup>10, Windows<sup>®</sup>8.1, Windows<sup>®</sup>8, Windows<sup>®</sup>7, Windows<sup>®</sup>Vista, Windows<sup>®</sup>XP, Windows PE は米国 Microsoft Corporation の、米国および他の国における登録商標または商標です。
- ・その他の会社名、商品名は、それぞれの会社の登録商標または商標です。

---

## HD 革命 /CopyDrive Ver.7 ユーザーズ・マニュアル

2017 年 4 月 1 日 第 2 版発行

発 行 株式会社アーク情報システム

〒102-0076 東京都千代田区五番町 4- 2 東プレビル

---

© 2017 Ark Information Systems

乱丁・落丁はお取り替えいたします。

著作権法の範囲を超え、本書を無断で複写、複製、転載することを禁じます。